

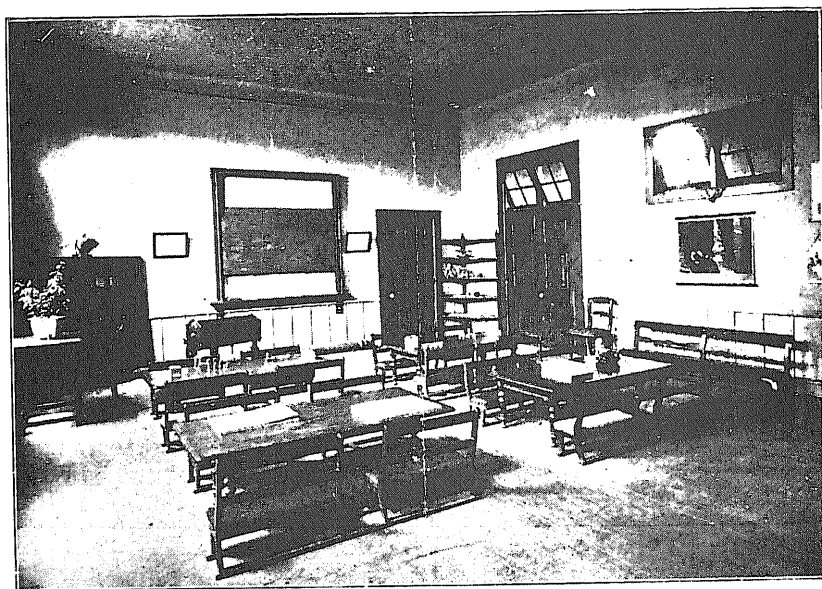
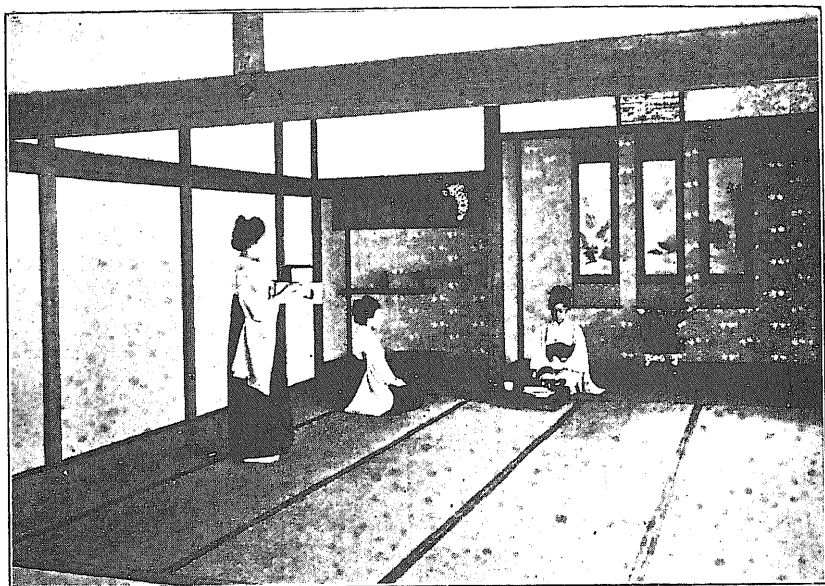
# 婦人供



第六卷 第四號

東京 弘道館

省



## ●●緊急會告●●

別項本誌革新の辭にて申述候如く本誌は愈大改革の時期に接し申候從つて茲に會員諸君に向つて二三の重要な事項左に謹告仕候

一、本誌は從來會員にのみ頒布の目的にて本會自ら發行其他の事務取扱ひ致し居り候ひしが斯くては本會發展の爲め不利益と存じ今回東京市京橋區南大工町一番地書肆弘道館と契約して本月より以後本誌の發行及販賣に關する一切の件を該館主辻本卯藏に委托致し候因つて爾今本誌發送に關する件は總へて該館と御交渉下され度候

一、從來本會にて直接取り扱ひ參り候會費徵收に關する一切の件も前項同様弘道館辻本卯藏に委托致し候に付本月分以後の會費は同人へ宛て御拂込相成度候尤も滞納會費の徵收に關する件は依然本會に於て直接取り扱ひ申す可く候に付明治三十九年三月迄の分は從前の通り本會へ直接御送付

下され度候

一、本誌發展の爲めには會計の整理を以て最も重大なるものとす、因つて會費滞納相成居候諸君は明治三十九年三月迄の分至急取り纏め直接本會へ御拂込相成度候

一、爾今入會御希望の方は御申込は本會へ直接に會費は弘道館へ宛御送金下され度願上候

一、雜誌御購讀のみ御希望の方は弘道館へ直接御申遣され度願上候

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

弘  
道  
館

辻  
本  
卯  
藏

東京市京橋區南大工町一番地

## 第十一回總會廣告

來る四月廿一日（土曜日）午後一時三十分女子高等  
師範學校附屬幼稚園に於て本會第十一回總集會開  
會致し候に付萬障御繰合御來會相成度候

明治三十九年四月

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

會  
員  
御  
中

## 會 告

前項廣告の通り來る廿一日本會第十一回總集會開會幼兒成蹟品展覽等も相  
行ひ申度候間幼兒成蹟物并に參考品等御送附下され度殊に御研究の調書統  
計、一覽表等の類をも御送附に預り候はゞ一層の參考と可相成候に付奮つ  
て御出品下され度願上候但し御出品は本會宛小包郵便其他御便宜により御  
届け下され候て苦しからず候

明治三十九年四月

フ  
レ  
ー  
ベ  
ル  
會

會 員 御 中

# 婦人と子ども第六卷第四號目次

本誌革新の辭.....	一
上流社會に於ける幼稚園の必要林吾一氏談.....	二
心のかくれば.....	野口 ゆか.....四
日の本の奥さまがたへ.....	アメリカの下女.....七
子供の日記につきて.....	東 基 吉.....二
思ひ出したるまゝを.....	岡田みつ子.....三
貞一の日記.....	そ の 母.....八
實驗上の育児.....	瀬川 昌耆.....三
今時の婦人.....	天 紅 生.....七
昔の玉子料理.....	石井泰次郎.....六
新形西洋前掛.....	村田かめ子.....九
治まる御世.....	豊州、芙蓉.....三

短 歌.....	眞宮 起雲.....三
俳 句.....	鹽野 奇零.....三
保育問答.....	.....五

## 雜 報

●女子高等師範學校彙報●幼稚園の理想的建物●  
 女子の詩文を募る●米國の教育寄附金●新式安全  
 ブランコ●お伽講話會●我國に於ける死産兒●學  
 校の塵埃●家婢教育●感すべき英國婦人●動物愛  
 護會●女子高等師範の保育實習科●女子高等師範  
 の卒業式●フレーベル會彙報

## 附 錄

切のないお話

やまとの翁





## 婦人と子ども

### 第六卷第四號

#### ●●本誌革新の辭●●

顧みれば本誌が大方の歡迎を受けつゝ、始めて呱呱の聲をあげたのは、過ぐる卅四年の一月でありました。爾來年を重ねたこと實に五度、一盛一衰は物の免るべからざる道理とて、其間多少本誌の消長、盛衰はありしとは申せ、終始一貫、幼兒保育、女子教育に向つての穩健着實なる指針となり、斯道の爲に聊か貢獻する所ありしことは、會員讀者諸君の等しく御認めある事と信じます。然るに時勢はます／＼斯方面に向つての吾曹の努力を要求する様になりました。戦後の經營と申せば、言ひ古りたる語の様であります、兎に角今日に當りて吾曹の經營すべき急務は家庭教育と女子教育と幼兒保育とに在りますれば、此時此際本誌が誌面に一大革新を施して、諸君と相見ゆるに至るは、實に本誌發展の當然の筋路と信じます。一見して本誌はたゞ革新の端緒たるに過ぎないのでありますが、次號以下に於ては尙大に内容の改良に移め出來得る丈け多數の當世名家の所説を紹介し、其他の記事をも一層精選します。正に春陽百花爛漫の秋、外觀内容共に改まり、眞に斯道のため讀者諸君の好伴侶たらんことを期して居ります。

右等の理由よりして、従前は單に會員に頼つただけにしましたが、今後は廣く一般讀者諸君の需用にも應ずることにしました。其詳細は廣告につきて御承知あらんことを希望します。(牧羊)



# 上流社會に於ける幼稚園の必要

東京府女子師範學校長 林 吾 一 氏 談  
兼東京府第二高等女學校長

近來幼稚園に注意する人漸く多きを加へ來り幼稚園の所々に新設せらるゝものあり従つて保姆の需要益増加せる由誠に賀す可き事と云ふ可し、聞く處に因れば外國に於ては貧兒のためにせる保育場甚だ多き割合には上流の家庭の子弟を集むる我國の幼稚園の如きものは比較的少しと云ふ是に於てか人或は我國の幼稚園を批難し之を以て世の贅物とし代ゆるに貧兒院若くは貧民の爲めにせる托兒場の如きものを盛に設立せんことを主張するものあり、吾人も是等の主張に對しては固より双手を擧げて之を賛するに躊躇せず、然れども之と同時に今日の如き幼稚園を以て必要なりとするに至りては之を賛する能はず、寧ろ吾人は益進んで

## 二

今日の幼稚園を發達せしめ、完全ならしむると共に下層社會の爲めにせる托兒場的幼稚園の新設をも盛ならしめんことを欲するものなり、何故に今日の如き上流社會の爲めにせる幼稚園の存留を必要とするかと云ふに一は我國の上流社會には家庭に共通の欠點あり、即ち僕婢に對する主従の關係が子女の上にも影響して家の僕婢を以て己が僕婢と心得、己の力にて爲し得らることをも僕婢をして世話せしむるため長く家庭内に育て、上流社會の兒女は漸次我儘者となるを常とす、今日に於て之を防ぐに恰好の方法は其等の兒女を托して幼稚園に來らしむるにあり、幼稚園の保姆は己の長上として事ふ可きも決して僕婢の如き御機嫌を取り呉るゝものにあらず、従つて兒女も幼稚園にゐる間は是非なくも我儘なる振舞を爲す能はざる

なり、又今一個の理由と認む可きは社交上の利益なり、凡そ上流社会の家庭には父母祖父母の如き長上あり、奴婢食客三太夫の如き臣下ありと雖も不幸にして同等の交際を爲す可き友を欠く會々兄弟あるものも長幼の秩序嚴然として犯す可からず是に於てか其遊嬉の相手となる可きものは常に奴婢に限らるゝを常とす然るに是等の奴婢たる極めて非教育的にして徒に兒女の氣嫌を損せざらんとをのみ努め未だ教育の何たるを解せず況んや同等の權力を以て之に交際することなどは思ひも寄らざるなり、然るに幼稚園にありては同年輩の兒女然も同等の權力を有せる兒女相集まるを以て對當の交際は是に於て始めて實現することを得可く兒女をして傲慢不遜の念を去らしめ、人も物も必ずしも我身一つの爲めにあらざることを悟らしむる

を得是上流社会の兒女に取りては大なる利益と云はざる可からず、近來女學校出身の主婦上流社会に乏しからず皆各々家庭の改善に銳意し上述の如き欠點を防がんとするものなきにあらねど因習の久しき到底充分の改良を望む可からず、之れを我校生徒の家庭に徴するに明白なる事實とす、因つて吾人は上流社会兒女の將來の爲めに學校幼稚園の如き家庭外に於ける教育場の彌が上にも盛ならんことを望まずんばならず、殊に幼稚園保姆の如き専門家に我子を托するときは以て家庭内に潜める意外の欠點など容易に發見せられて兒女將來の不幸を未然に防ぎ得るの大利益あるが故に富裕なる生活に身を置ける人々は徒に業務の忙しくして兒女教育の暇なきを憂へず進みて我子を家庭外善良なる教育者に托するの勇ある可きなり。

# 心のかくれば

華族女學校教授 野口 幽 香

これは或夏休に廿年ぶりで故郷の家を跡見に行きたる時の記事の一部であります、もとより不文茲に擧ぐべきものではありませぬが、母が非常に植物を愛しました爲に、知らず其感化を受け成長したる今日、世の風波烈しき時には、一寸花の影にかくれて、無限の慰藉を與へられますのも、つまりは母の家庭教育のおかげと、いつも感謝して居ります、此記事の中にはちよいとその様子が見えますから其爲と、今一つは、人間には何でも故郷などを追懷して、神聖なる心を養ひませんと、利己一偏の無趣味な人になりかふせすから何でも幼時を追想せしめる様な材料を残す事は母として心掛けてやるべきであるといふいつもの私

四

の考から、左に記して見る事に致しました。借家に生れ借家に育ち、又しても又しても親の轉任に伴はれる子供は、左の様な感情は到底得られぬ事と思ひまして、何とか他の方法にて補ふものなくばと、いつも私は思ふのであります。

わが家の跡今は射的場となりて行かれぬこともありときゝたれば、けふは如何にと道行く人にさゝしに、なしとの答にいざや向ふ、城の東方少しの地は昔のあき屋敷其儘に残りしかば、はや昔にかへりし心地す、それより射的場に入りしも、一面の芝生に何處をどことも見わけ更につかねばまづ城の石がけをわてに歩み出せしに、堀はさすがに昔の儘學校がへりにつみたりしいちごの木など其儘なり、次第に歩めば生れて十六才迄朝夕めなれし松の木の其儘なる前に

來りぬ、あゝなつかし嬉し、吾はしばし涙に  
めあへざりき、こゝは幼きわれ、兩親弟妹と共に  
に最平和なる生活を送りし所なり、きたなき吾  
家のありたる處なり、わがホーム！われは實に  
ホームを思ふ毎にこゝを思はざるはなかりき、  
爾來廿年の歲月、この景色のわが夢に入りしは  
幾度ぞや、家なけれども石がけも堀も松も城の  
窓も少しも變らず、あの城の窓より人ののぞき  
し時われはいつも下よりそれをながめたりき。  
吾は冬の日吾家の椽に座して母の手助けに糸車  
まはせる時、晝過ぎになればあの松の爲に椽の  
日影となるをなげきし事常なりきわ、其松！幾  
年の風雨にも昔の儘の姿にて、今又かくまでも  
吾を喜ばしむるか。隣家との界の向ふにも亦松  
あり、大松と稱へて、雷の鳴る時にはあの松に

落ちはせぬかと、祖母のたまひしを覚えぬ。  
學校より歸れば第一の樂みたりし柿の木は、此  
邊にありしならん、秋の末美しくなりし柚は、こ  
ゝらあたりなりけんなど、跡もなきに空しく探  
したりき。堀ばたにありしものは或は残りもや  
せんと、一面に敷となれる間くぐりていづれば、  
わゝ嬉し、吾家の前に植えたりし花菖蒲の今は  
一面にひろがりて、堀の半に達し、隣家にて植え  
置きし蓮も左右にひろがりて今は眞盛り、香ば  
しき香はわが心をますく清ましめナギコーホ  
ネなどありしまゝ、今も榮えぬ。わゝ廿年前のわ  
れ廿年前の吾家！十五才の小娘たりしわれは浪  
風あらし人生の事など夢にも知らず無心にして  
愛らしかりき、わが母と祖母とは植物を愛して、  
四時花のたへぬ様にと心盡し給ひたりしが、今

も弟と共に、此家を追想し、家の圖にありし植物などかき列ぶるものあるなり、世間知らずの小娘にもきたなしと思へりし吾家、もしあらばわがなふてわれらのかくればとせんものを、今は影だになきを如何せん。

夏の夕方妹負ひてあき屋敷に行き一面に咲ける月見草に恍惚として居りしに背にありし兒は隣家の娘のうたふ節にあはせて、つきみさうと歌ひし事今も覚えぬ、其花今は一面に廣かりて吾家の跡までも、さるに隣家の娘は不幸心狂いて永く親を煩はし、過ぎし年死せしとき、しのみ、わが東隣の家の主人は、夜毎の酒に氣嫌あしく、いつも大聲出して怒るを常とせしが、今は行衛もわからぬ迄になりぬとき、わが祖母も父も母も皆逝きて稚なかりしわれら三人のみ

残りぬ、草木は今も昔に變らぬものを、など、とやかく幼時の追懷に茫然と自失せるが如く、家も人も昔の儘眼前に見え、弟とまゝとせし梅の木の下なる幼きわれになりし心地しては、眼さめたる如くに、又廿年後の今にかへりぬ。

体量と腦量との比較

	体量	腦量
初生兒	一	1/7
十三才	一	1/18
成人	一	1/45

日の本の奥さまがたへ

在米國 アメリカの下女

母國に居ります間は、一方ならず御世話になりまして、ありがたうございました。何か珍らしきこととあらば、せめては拙筆の通信なりと、御目にかけまひらせたくものと、心にかけて居るのでございますが、觀察とやらの範圍は庖厨に限られて居る身、それに御存じの通りの無情ものでございしますから、インキとペンは後世大事にデスクの上にクープして一千九百五年（大變ながい月日のやうにきこえますネー）もとうとう経過して仕舞ひました。

ことしもおさんの泣きごとをきくことかと仰せらるゝかたがたに、思ひもかけぬ御笑草をさしあげて、家庭の談柄に賑かな花を咲かしたものだ、と

まてば甘露の日和よき昨日のアフタヌーン、お隣りの下女と世間ばなし、ふる里ならば井戸端會議の筆記のうちに、これこそと思ふ種一ツ、漸くのことで見つけましたからハペーニウイーアの御つかひものといたします。

まことに結構ですからと、自分で褒めて人に贈るはこの國の風俗、頂いて見ると余りありがたくもないのですが、これもその類と思召のはど御願ひ申します。

慾ばれアお金はふるアメリカの桑港、はたらいたらすぐに錢をクレー街に、ジャクソンと云ふ中産の家がございました。けふしも主人の弟ジョルジと云ふ男、田舎の住居からやつてきて、一人息子の太郎にプレセント、思ひもかけぬ太鼓一ツ、四つのお太郎は大喜び、御覽々々と云ふてまづ祖父母

の室にもつてゆきました。

そのおとからノツソリと御機嫌伺ひに参りましたのはジョルジ、お禮の一言もあるかと思ひの外、ジョールジ、お前はマア何と思ふてこんなものを買ふてきたの、太郎が毎日これを叩いてゐるいたらやかましくて大變ではないか。

久しぶりで両親の小言をさましたジョルジは、そうでしたネーと云ふてももう遅ひ、太郎の太鼓はボンボコボン、廊下を勇ましく行軍して、先づ母の室を襲ひました。頭痛にて鉢巻をしてゐた母は、椅子からとびあがりて、

ケドやケドやそんなものを叩くとかあさんがキーキーがわるくなるよあつちへ御出で、あつちへ御出、

追ひいだされた太郎は父の手紙かくところにゆき

八

て、青い眼玉を頂戴し、廊下を逆もどりして祖父の書見の邪魔になり、こゝでも叱りとばされて、次には祖母の編物のうしろからドンドコドンをおびせかけ、おはれそこをも追ひ拂はれて、伯父ジョルジを電話室に訪れ、感謝の太鼓を叩きびだしました。ジョールヂはいま商業のかけひき最中。

エ、二百五十弗、ダメですよとても三百弗より一セントも……

感謝の太鼓ドンドコドン、ドンドコドン、ア、やかましい、エ、二百七十弗いやいや三百弗でなくては、エ、何ですと、ア、やかましい感謝の太鼓ドンドコドン、ドンドコドン

エ何ですって、ハッ（もしもし）バアロー、よくきこえませんかエ、ア、やかましいこの餓鬼、



いきなり太鼓を太郎から奪ひとり、こぶしをつツ  
こんで破つて仕舞いました。ケドの泣き聲は非常  
ラッパ、太鼓どころの話でありませぬ。何事かと  
スリッパのまゝで駆けてくるマンマア、ペンを  
握つてやってくるババア祖母に祖父に包圍攻撃、  
御前どうしたといふのだよジョールヂよ、いゝ  
年をして子どもをなかせてサ

御前新らしく買ふてやりナ  
頭をかゝへてかけいだしたジョルヂ、ほど近き玩  
具屋にゆくに小さなるものなしとのこと、まゝよ  
これでもと求めてきたのは驚くでありませんか樂  
隊用の大太鼓、一家呆然、太郎ひとり得意満面、  
指して曰く御覽御覽。

つまりぬ御話でございますが、どこやら味なとこ  
ろがあるではありませんか。おさんは決して今の

ハイカラ式部さんたちの御厭ひな保守主義とやら  
ではございませぬ。けれど、はいるものは何でも  
家珍だといふ調子で、バタ臭き風俗習慣まで、人  
まねこまねにわが島國へ入るゝと云ふは、そいつ  
いけませぬサワミルク、アイドンケーア ござ  
います。

家庭のよみもの、家庭の小説、女子の何、婦人の  
何、その月ごととその年ごとに殖えゆきて、スト  
ーブのたきつけありあまるが上に、科學的とやら  
心理的とやら、片假名でかく著者の名は下に居ろ  
下に居ろと云ふかけ聲にて、翻譯と云ふ帽子はば  
をきかす世の中、二こと目には歐州ではこちらの、  
アメリカではあゝの、先進國はどうとか、文明國  
はかくとか、吾等女性に對するプレセントは餘り  
多過ぎて、うれし過ぎて、よみ過ぎて、はては出

すぎて、家庭の平和が破るゝこともあるではありませぬか。

女性と云ふものに同情とやらよせて下さるはありがたいたい社會の聲でござひますが、舊信仰のちいばに、舊思想の父、母は生活の頭痛になやみ、靈よりも肉の飢にくるしむ家庭に、いますこし穩かな贈ものがなひのでございませうか。

衣服を改良しなければならぬの、坐禮を廢さなくてはならぬの、漢字をどうかするの、中々にやかましい太鼓の音でござひます。ストープも整へがたき家庭にて西洋料理の御稽古に熱くなり、盆踊りととがめた姫御前は舞踏の御さらへに御忙はしいなど、おさんは思ひだしてもキーキーがわるくなるやうでござひます。どういたしまして決してその、御折角のくだされものを何のかんのと申

すのではありませぬ。ありませぬがせめてはやさしきおとなしき姫百合に天のくだせる露ひと雫はしいのでござひます。まごゝろと云ふものは、國の寶家の寶、世界の寶だのに、古ひランプだからとてこれまでもすてゝ仕舞ひ、新らしければとて、電氣も通はぬ電燈ボヤをひからかすこと、苦々しいではありませぬか。

さりとして、折角いたゝいて喜んでゐるものを、破つてしまつてはケドの大泣どころか、やはり家庭内の大騒ぎ、こゝ一つどうしたらよいでございませう。

女大學の再興、武士道の大賣りだし、蝦茶袴に薙刀のとんだりねたりもあまりなる大太鼓でござひますネー。過渡時代とやらでもすこしもさしつかへのない、そしてまだ魔法つかひの金の杖のや

うな、そこからくるものを眞の實にして仕舞ふ『あるもの』が、庖厨に鹽があるよりも必要であると存じます。

下女のくせにとんだ氣焔とやら氣まぐれやら吐きいだしましてまことに相すみませぬ、卵一つ煮るのでも一分間違ふとスポイルしてしまひますもの思想の撰みわけ、主義のか料理、いまの日の本の家庭を治める奥様だちの責任は、中々なみ大抵でございます。御察し申ます。さやうなら、

(二月三日)



## 子どもの日記につきて

東 基 吉

子どもの日記を、誕生の始から、毎日通して記けて行くことは、母親に取つて、大層趣味がある許りではなく、子供を育てる上について非常に大切なこと柄であります。例へば目方や身長が、一月毎に増して行く具合がきちんと見えたり、今日は、何といふ言葉を覺えたとか、昨日はどういふ言をいつたか、どんな遊びをしたとか、といふ様なことを柄を毎日記して行つてそして時々引くり返しては此前の所を讀んで見ることは、母親に取つてどんなに樂しみであります。

夫れが、たい樂みといふ許りでなく、育て、行く上に實際中々大切だと申す事は、先づ第一に、子供が病氣にでもかゝつた場合に、平常の熱がど

れ程で、呼吸の具合がどんなで、食物の種類や分量がどうで、便通の有様がどうで、睡眠の時間や状態がどうといふ様なことが、ちやんと、記載されて居ると、醫療の上にとれ程助けになるか知れますまい。殊に病氣中の日記を細かに記して置けば、後日同じ様な病氣にでもかゝつた時、非常な便宜を得ませう。又教育の上からいつても、精神の發達の具合や、平素の遊戲の種類や、其他の習慣や、其習慣のよつて來つた原因等を一々細かに記載して置けば、大層参考になることでありませう。

夫れ許りではありませぬ。其子供が生長して、この日記を讀む様になつた時分、親が自分を育てるに、どれ程苦辛されたかといふことが、一々知れますから、親に對する感謝の念が、非常に深く

なること、思ひます。子を持つて知る親の恩と申します、よし子を持たんでも、この日記を讀んで、親の深き恩恵に感泣せぬものはありませぬ。で、私は皆様に、是非子供の日記をお記けになることを希望します。面倒の様にありませんが、子供を寝かせてから、或は自分が床に付く前に、僅か二十分か三分もかゝれば宜しいのであります。尤も始めは、多少面倒とも思ふ事もありませうが、記け出すといふと、中々面白くなつて來て、今度は已めるのか惜しい様で、已めれば反つて何だか氣が済まぬ様になつて來ります。よし、多少面倒かあるにしても、この位の面倒を見てやることは、子供を育てる母親の務としても、やらねばなりません、まして、夫が將來大切な價値の出るものであつて見れば、尙更のこと。たい一つ氣

を付けて置くことは、若し母親が自身で何かと子供の世話をする時分には、小さい手帳を始終用意して置いて何でも記ける價値のある事が起つた時分に、夫を心覺えに手帳に記して行くことであります。若し他人に世話をさせるといふ時には、其人に手帳を渡して置いて之れを記けさせる様にする。そうでないと、用が多い爲めに、晝間あつた事柄を、さて記入しようとすると時に忘れて仕舞ふ心配があるからであります。次號には、何れ日記記入に付きて注意すべき個條を擧げて見ませう。

ときはなる松のみとりも春くれば

今ひとしほの色まさりけり

(古今集)

## 思ひ出したるまゝを

女高師教授 岡田みつ子

●米國人の親切という事については、左の一節を御讀みなされば御合點がゆくだろうと思ひます。私の居りました大學では、毎年九月に新しい一年生が入學致しますと、校長が主人役となり四年生の有志の人が接待掛りとなつて、新入生を招きまして、茶をのみ菓子を食べ、その間に互の親睦をはかるのが例になつて居ます。それで私も明治三十五年の九月に入學いたしました時に、此會に招かれましたのですが、知り合ひの生徒はなし、様子は分らず、招かれて嬉しい處か大心配で、出来るならば行かずにすませたいとまで思ひました。處がいつて見ると案外の結果であつたので、その時の様子が悉しく日記に記してありますので

す。

上略「今日の會へゆく馬車は私が頼んで上げます。

エー日本服を着ていらつしやい。校長の處へ出るのですから立派にしていらつしやい。どの衣服をさるのか御相談にのりませうか」とまで申されるのはS氏で、よろしく御頼申して教室へいつて見たらば、文學の先生は態々自分の處へおはして、

「けふの會へは御一人では厭でせうから四時十五分に應接所までいらつしやい。私が待ちうけて會場へ連れていつて上げます」

と申さる。之に勢を得て、午前の業を終へて歸宅し午後はいつにもなく大騒ぎをしてトランクの下から衣ものを出す、帯を出す、やうく一人で着終へてS氏の御部屋へ見せにいつたら

ば、家の子息は部室の戸の外から私にも見せて下さいと言うてゐる。うちの主婦も出て來られて、上を見下を見、これならばよいと申される。「馬車が來ない、も一度よびにゆかうか」などと、S氏が申されると、主婦はまた「風を引かぬやうにネ。御茶を澤山御のみなさるな。話をなるべくなさい」などと注意をして下さる。そのうちに馬車が來たので子息に送られて乗り移つた。

學校をさして行く道で、けふの會にゆく生徒だらう、さものを着かへた若い人達四五人に逢うた。玄關へ着いて、馭者に五時半に迎へにと頼んで階段を上ると、もう文學の先生は戸口に待て居て下すつた。嬉しくて我を忘れて外套を御渡ししたらば、それを扣室へ置いて「イザ」とて

案内して下さる。

會場にあてられた一室は、けふは戸が一ぱいに開いてゐて、内は人で埋まつてゐる。小さくなつて御あへとへついてゆくと「第一に校長と副校長とへ御挨拶なさい」と仰つてその方へ導かれる。幸ひ校長も副校長も手すきだつたので、御二人ともよく來たと喜ばれて學科の様子はどうである。作文の好成績の事をきいたなど、懇に挨拶せられた。それが濟ひと、先生は自分を四年生の人に頼んで引まはしてというて居られた。こつちへ來よといはれたので、何だかいろ／＼の人に紹介せられて、日本服のはなしをしたり、袖口や、八ッ口や裾などの様を見せたりして居る程に、御茶と御菓子とをもらつたが、あつちからも、こつちからも話をしかけられる

ので、忙しくて飲む間も食べる間もない。少し一群の人の中に永くゐると、こつちへもどうぞと又他所の一群の方へ引ばられる。夢中になつて時の過ぎるのも知らずに居たが、その中に先生の姿が見えたから。もう歸りますと申したらば「では校長に御禮を申して」とて連れていつて下すつて、その上馬車の處までも御送り下すつた。(下略)

●自分と同じ家に寄宿して居つたG氏という五十才ばかりの婦人は、何事にも自分の意見の定まらぬうちは、人の意見を尋ねたり新聞雑誌の意見をよまぬというた事がある。なるほどこの人は、事々に相應の意見をもつてゐて、人に話しかけられても聞き手にばかりなつてゐる事がなかつた。

●米國にもずいぶん分らずやもあるもので、私の



居りました大學へ、新に入學した生徒の父が自分の娘を寄宿舎へ入れるについて、最上の部屋を取りたいというから係りの人が「それはいけません舊生徒にあてはめた残りの中で御撰びなさいというたらば「イヤどこそこの學校では自由にさせるから、此の校でも」と言ひ張る。いくら言うたて取り上げなかつたので、仕方なく幾人も幾人も先生の訪問して、同じ問題をかつぎまはつて居つたという話をききました。

●之も同様また聞きではあります、新入生が食卓で朋友の誰れ彼れと並びたいと、係りの人に申し出した處が、そういう都合には行かないといはれたらば、其の申草がいかにも面白い、アメリカ的で、「いくら御金を出したらば出来すか」と

●二人の米國婦人が歐洲へ旅行した時の話をして

居りましたが、一人が「英國の人は忠君の情が厚くて 女皇陛下の崩御の報の傳はるや否や、人はみな黒い衣服に着かへ、間に合はぬ人は腕に黒布をまとうて居つた」など、話して「それからエドワード皇帝の御即位式の時に一人の英國人が自分に對して、あなたも王様といふものが欲しくはありませんか」と尋ねたから「イヤ王に對してはどうかという考のうかぶものか想像がつかない」と答へたと申しましたらば一人は「ホンに王とても天皇とても私にはその方々に對して特別の感じは起らぬ」と答へました。傍に聞いて居た私は、少なからず驚きました、米國の人としては當然の考へなのでせう。

●日本では洗濯屋といへば下等の商賈ですが、米國ではスミス大學の卒業生が洗濯という事に就て

はまだ十分の研究をした人がないからとて、私は米中に、試みに洗濯屋を開業しました。萬事よく注意してやるとかで評判がよう御座いました。私の居つた大學の卒業生も二人共同して旅館を開業しました。とにかく大學の卒業生でも、高くまつて上品ぶつて居ない處が價值です。

●今の世の生活のむづかしい！私の居たうちの子息なにかは、立派に大學を卒業した若ものでしたが、さて職業を見附けるとなると容易に見付からず、一月も二月も空しく遊んでさて出来たと思ふと、朝は六時とか七時とかから夜は六時までい俸給もいくらでもないらしい御座いました。財産がなくて世の中へ出やうとするには相當の教育があつてさへ、この通りで米國での世渡はむづかしいのです。この人は男子だからいやな顔もせ

ず、家を離れて一週間アクセクしてゐましたが、土曜の晩に歸宅した時の嬉しさな顔、日曜の晩に戻つてゆく時の進まぬ様子は傍で見ても氣の毒でした。やさしい母親が土曜日にはもう待つて居て、好きなものを料理をしたり、一所に散歩したり、一所に音楽をやつたり、出来るだけの愉快を與へやうと勉めるので、これがその若もの、最大の樂みに相違なかつたのです。この樂みがあるから厭な仕事も進んでするので、實にこの母子の關係は美はしいものでした。

●ラスキンの申した處に面白い事は澤山あります。「人は心をみがき徳性を養うためには終生戦はなければならぬが、体力及び才能には限りがある。その限りを知らず、腕が疲れ脳がいたむまでも務めて偉大の事をしやうとの野心を起すのは愚で

ある。すぐれた人は苦しむ事なくて大事を果たす。  
世の人この秘密を解したらば、その生涯の幸福がい  
かばかりだろう」といはれたのが、何だか深く  
身に染みていまでも記憶して居ます。

子供が眞似をすることは大切な事である。言語も初めは眞似  
て出来たものである。お神樂の眞似、電車の眞似、まゝ事、  
等數へ来れば模倣と子供とは大變な關係がある。従つて子供  
には劇的の遊びが中々に多い。然るに今日まだお伽芝居に  
する研究が少ないのは遺憾である。

## 貞一の日記

(承前) (明治三十六年)  
(五月生男兒)

十八

その母

二月廿二日 家の人ばかりの時は、何でも唱へど  
他の人が来りて、何か歌へといふも、中々歌は  
ぬに、今日は、林ふみ子さん、來訪せられし時、  
御馬の歌や、荒城の月などを、幾度も唱ひたり、  
安田さんが、貞チャンの足袋片方頂戴といへば  
あげると乏食になるといふ  
朝、牛乳一〇〇瓦、飯一椀、味噌汁少量、  
晝、飯三椀、いなだ、(煮魚) いそべせんべい  
二枚おやつ、牛乳二〇〇瓦、カステラ  
夕飯二椀 生鶏卵一個 いそべ二枚  
便通なし、  
二月廿四日 朝九時頃強震あり、ピアノの上の獅子  
落ち來りしに驚きて泣き出す。

二月廿五日 昨夜床に入りし頃手少し暖き様覺えしが、今朝に至りて咳少し出づ、  
便通一回

二月廿六日 今日は晝間も咳少し出づ、但し元氣も食欲も變らず。

夕刻父母と炬燵を圍み居りし際、父戯れに母の額へ小さき紙片を粘り附けんとして、母の小さき腫物に觸れしに、母の思はず痛い顔をしを見て、貞一ワット啼き出し、左も怨めし相に父の顔を眺めつゝ中々泣き止まず、兎角して機嫌を取りて泣き止みしも、容易に物言はず。父が母を打ちしとでも思ひしならん。

二月二十七日 咳多くなれり。熱もあり、食欲減す。夕佐々木先生を迎ふ。

二月二十八日 午後四時半熱八度四分。咳多く出

づ 食欲なし、佐々木先生來診、機管支加答兒とのことなり。便通二回雨降りて氣候寒し。

三月一日 天氣は晴れしも風強し。熱は正午に八度九分に昇る。佐々木先生來診。氷袋、氷枕にて頭を、冷やし、胸は濕布をあて、其上を更に氷にて冷やす。吸入數回食欲なし。

三月二日 午前二時六度七分、午前六時、七度二分、午前八時七度五分、正午八度六分、午後五時九度二分。下痢四回

食事は、朝牛乳一〇〇瓦、晝牛乳全量にさしみ二切 シュークリーム、一個。タスプ二〇〇瓦に牛乳五〇瓦、天氣晴れしも風寒し、室内温度六十五度とす。

三月三日 朝より雪降る、午前一時六度五分 八時六度九分、十一時半六度八分、午後六時六度

九分 便通二回

食氣なし。朝牛乳一〇〇瓦但し水と等分。スー

プ少量、晝水と等分の牛乳五〇瓦にシユークリ

ーム一個。タシユークリーム半個に牛乳五〇瓦

二月四日 空晴。午前八時六度五分 晝五度七分

夕 六度五分

食事 朝粥一椀、牛乳(水と)一〇〇瓦、晝粥二

椀に刺身少量 夕粥半椀スープ及刺身少量

五日六日七日と追々快方に向ふ

三月八日 佐々木先生來診 もはや病氣は全快せ

しも尙暫らくは此温度の室(六十)に起臥し、他

室に入出せぬ様注意すべく且つ食事は平生に復

して宜しとの事なり。

三月九日 元氣大分宜し。吸入器にかけたる白布

を見て、吸入ノオコシマキといふ。何時かも自

二十

轉車の泥除けを見て 自轉車の前掛といひして  
とあり。

三月十日 床上げ、但し室内にて遊ばせる。

三月十一日 今日より時々室外に出だす。裸體美

人の薄き肌着を着たるを見て「コレオペ、キカ

ヘルトコ、ジバンキテキル」などいふ。

三月十三日 昨日より上唇少し腫れ居たりしに

今日は上下とも腫れて且つ膿を持つ、爲に食事

困難にして中々氣六ヶし、近所の醫師より硼酸

水とリスリン濟とを貰ふ、熱も多少ある様子、

胃のあしくなりたる爲めかとも思はる

三月十七日 久し振りにて入浴す。

三月十八日 日曜なれば父母と午後より植物園に

行く。葉の落ちたる立木の所へ行きしに「コワ

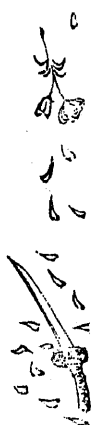
イ コワイ」といつて中々動かす、「あれは木だ

よ」といへば、「木コワイ コワイ」といふ、抱いて其側に行けば、「キチャイケナイ パカ バカ」といつて、恐れて泣き叫ぶ。池の方より上に上り行けば、「オウチガナイ」といつたり、「キガコワイ」といつたり、杯して、中々むづかる。三月廿一日 祭日にて天氣もよし、久し振りにて本郷の電車の所へ行く、満員にて乗れぬ時は、非常の勢にてあばれる。やつと乗り込みて上野にて降りる東電を見るや否や、「浅草電車ノリマシヨ」といふ。三宜亭の所にて始めて、乞食の親子を見る。手に持ち來りし一厘錢を乞食の子に與へしまゝ、不思議相に見て居て動かずに居る故「貞一は乞食の子になるのか」といへば澄まして「なる」といふ。

此頃貞一は時々家内のものに向つてお話をして

聞かせる。夫が中々妙なり、其中の電車の話といふのか次の如し。

アノネー、リヨノク(兩國)ノデンシヤトネー  
アサクサノデンシヤトネー、ウヘノ、デンシヤ  
トネー、オチャノミヅノデンシヤトネー、ツナ  
ダー」須磨の曲を聞き覚えて、ライデンヘキレ  
キ、チンチヲシンドーシなど大分續けて歌ふ。  
三月二十四日 「貞ちゃんの名は」と問へば、態と、  
母の名をいひ「母さんの名は」と問へば、又自分  
の名をいふ。そしては「貞一や」と母を呼ん  
だりする。



實驗上の育兒(つゝき)

醫學博士 瀬川昌耆

智慧付

▲歩行の時期 哺乳兒が首を據げられるやうになり、手足を突張つて後へ——と居る様になると、是が抑も前へ這出す兆と承知するが宜い、後方へ居去つてから前へ這出すのは發育上の順序である七八ヶ月目になると、何うやら座られるが、夫から二三ヶ月経つて、即ち生後十ヶ月か十一ヶ月には、障子などへ捉まつては危氣ながらも立上つて、臀を突いても亦興に浮れて立上る、トウ／＼夫れから手放して歩けるやうになるが實に哺乳兒の成長は早いもので此時は生れて一年内外です。

▲投遣つて置け 總て身体の發育上から言ふと、餘り愛撫がり過ぎて、抱いたりかゝへたり、ちや

●はやすると却つて夫れが發育の障礙となつて、歩くのも自然遅くなる順序となる、故に人手の多い家族や老人達のある家の哺乳兒は下へも置かぬ育てかたをするので歩くのも遅くなる譯、却つて人手の少なき家族は投遣つて置くから哺乳兒は自分勝手に色々行つて見て、歩く事の智識も早く付く是は即ち身体發育が善良なるからである。

▲はん肥りでない 歩行と云ふ事は哺乳兒によつて色々調子の異なるもの、健康な兒でも遅く歩出す事もある、又生後一年半位でも歩けぬ兒もあるのです、一体肥満た兒は丈夫さうに見えるが、余り肥り過ぎるのも宜しくない、之は營養の仕方が間違つて居る、所謂「はん肥り」でないから肥り過ぎて健康でない事と用心するのが大切です。

▲視線の固定 以上は身体の發育状態であるが、



尙續いて精神上の發育狀態を説明いたさう、初生兒の生れたときは必ず室内を薄暗くして置くべきもので、明るい處は大層嫌うのです、生れて四五週間目までは視官が充分發育して居らぬから物を凝視する事が出来ない、視線は固定せずにチラチラ動いて居るのであるが、併し生後二三週間経てば漸次明かるい方を見て、明かるい方を好むやうになつて來ます、四五週間の後になると視官の發育も盛んになつて、ジーツと人を見詰るやうになる、であるから一二ヶ月経つても、物を見詰る事の出來ぬのは腦に故障のあるので早く其の手當をするやう御注意いたして置きます、斯ういふ事は経験なき母親は油斷なく舉動に注意し居る積りで餘り氣の付かぬもので折々手拔りのある事は是迄屢々實見致しました。次第に月を重ねて七八ヶ

月目から人を識別する智識を備へ、父母の顔も知るやうになり、自分を愛するのは何の人であつたかと云ふ事も知つて來る、故に人見知りして知らぬ人だと顔を背けたり、泣出したりするのも此時からです。

### 聴覺と發語

▲大きな音を忌む 生兒の生れた當時は視線も固定せず、聴官の發育も完全して居らぬ、生れて一日二日は聴覺のないもので即ち構造が未だ充分になつて居らぬのです、去れども夫れはホンの僅の間で直に構造は完全に改まつて能く聞えるやうになります、聞えて來るやうになるとナカ／＼穎敏なもので、哺乳兒時代には一寸した音響でも大層強く激く感ずるのは即ち耳の穎敏な證據である、夫れ故此時代の兒の四邊では餘り大きな音をした

り、強い響きを感じるやうなことは避けなければならぬのです、親達や家族の者が高い音をせないでも他動的強い音を受ける事がある、随分开んな場合には痙攣る哺乳兒を數々見受けるから氣を注けて遣らなければならぬ、夏でも雷の鳴る時、烈しくなつて來たら、寢せて置かずに、抱上げて遣り、成丈け其の響きの低く聞ゆるやうに、耳を塞いで注意を與へないと非常に雷鳴に恐怖する事がある、其外閑靜な所に居慣れた哺乳兒が急に汽笛の音に驚くとか、總て俄に高い響きのするものに接近したときなど耳を庇護して遣る事が大切であります。

▲聲を識別す 聴官の健康に、安全に發達する哺乳兒は生後五六ヶ月の頃になると、音響の孰れの方から來たものか何處で自分を呼んだのか、又

聞き慣れた人の聲か、聞き覚えのない聲かを識別し得るやうになる、であるから兒の名を呼ぶと其の兒は聲を懸けた人の方を振返つて見るやうになる、夫れから九ヶ月目か十ヶ月目になると廻らぬ舌で、不完全乍らも發語をする、追々と日増しに言葉や、物真似をするやうになるし、舉動の上に、其の眞似が顯はれて段々と上手になり、進歩して來るのです

▲發語と周囲の關係 故に此時分は善い事、悪い事、唯無闇に眞似をするのであるから、哺乳兒の周囲の關係に充分氣を注げる事は親達の大切な任務であります、野卑な、下品な眞似をする兒は矢張り其の周囲の關係が卑しいからでありませう。又周囲の關係は、發育上に大なる影響を及ぼすもので、自然に哺乳兒が見覺えるとか、聞習ふのな

ら差支へないが他から干渉して色々の事を教えるは、至極宜しくない、兒によつて一年から二年の終りになつても能く口の利けぬ兒がある、爾うすると親達は非常に之れを苦に惱み「他の兒は此の兒より遅く生れたけれど、モ一口を利けるのに、何うして此の兒は能く口が利けないのだらう」と心配するが、口を利く時期が遅いからと云つて他の部分さへ完全に發育して居れば一向差支へない事で、只遅速のある計りと思ひ其内には能く口を利くやうになつて來ます。

精神の發育を害す

▲無理に教えるな 哺乳兒が智慧の付くやうになり、言語に、舉動に物真似をする事は周圍の關係が大なる影響を及ぼす事は前に述べた通りであるが、親達の情として兎角我が兒の早き智慧付きを

喜び、況して祖父父母のある家では尙ほさら、色々の事を教えます、成程教えれば哺乳兒も夫れを見覚え、聽覺にて、教えられた様に真似をするが、切斯ういふ風にして哺乳兒の精神を發達させる事は、果して其の兒の爲め利益な事であらうか、何うかと云ふに、是は至極悪いことで、精神上の發育に非常な不利益を與へるのです。

▲精神を刺戟す 一体哺乳兒の智慧付さが他の哺乳兒に比べて遅いからとて決して、夫れを氣遣かふ事はない、他の哺乳兒は『お頭てん』が出來るとか『かア』とか『わん』とか鳥や動物の鳴き真似が出来るのに自分の兒はナゼ斯う智慧付が遅いだらうと、親達や祖父父母達は心配して頻りに教え込む、覺えないと無理に叱るやうにして教えるが、頑是なき哺乳兒に無理に教えた

ところで何の効が有りませう、尤も周囲の關係上教  
えれば必ず智慧付の早いものだが、之れが我が愛  
兒の不爲になる事と悟つたら、無理に智慧を付け  
させ無理に精神を發達させるにも及ぶまい、此弊  
害は哺乳兒の精神を刺戟して發育を害ふから特に  
御注意申すのです、世間には必ず斯ういふ弊風を  
悟るお方も澤山ある事と信じます。

▲哺乳兒の自由に任せよ 總て哺乳兒には餓れば  
乳を與へ、又た兩便の爲め襁褓が濡れば夫を取換  
へてやる、夫れ丈の世話を欠さずに置けば澤山な  
ものです、無邪氣な哺乳兒に爾う世話を焼かずと  
も一定の時期さへ來れば智慧も付いて來るし、口  
眞似もすれば、物眞似もするやうになるから、成  
丈け干渉せずに哺乳兒の自由に任せて置くが宜い  
之が保育の善良なる方法である。

▲健康なる哺乳兒の大便 次には健康なる哺乳兒  
の大小便に就てお咄致さう 大小便の注意は親達の  
極く大切なことで之に依つて哺乳兒の病氣を發見  
することも出来るし、病氣の手當を機敏にするこ  
とも出来る、此大切な注意を要する大小便は生  
後何んな状態に進むものかと云ふに先づ大便は前  
に初生兒時代の取扱法で述べて置いた通り生兒  
の大便は黄色で、柔かで回数も多いが、日を経、  
月を重ねるに従ひ夫れが堅目になつて、水氣も少  
なくなつて、回数を減じて來る、之れは即ち乳汁  
の關係であるが、茲に念の爲め咄して置きたいの  
は母乳で育てる兒と、牛乳で育てる兒とは大便の  
性質が違ふ事です何んな鹽梅に違ふ者か夫は次に  
申上げやう。(續く)

# 今時の婦人

天 紅 生

▲今時理想の家庭とか、スパートホームとかを、口癖にする婦人に、其通りの家庭の出来たる例少く、かゝる言葉を知らぬ田園生活の人々に、家庭の理想が現實になり居るも可笑し。

▲今時の婦人には、海軍思想を養成する必要あり良人の海外移住に、夫人の同行せでは、永久の移住殖民は望み難しなど説く、言ふ所まことに理あり、たゞかゝる言を口癖にする人に限りて、良人も其夫人も、兎角内地の氣候よき所に引籠り勝なり。

▲今時の婦人は、兎角卑屈で、引込勝ちで、夫の壓制に甘んじて、丸で給金不要の下女の様なり、今少し活動的で、進取的で、大に婦人としての位置權利を自覺すべしと唱導する男の、其通り實行

する妻君を持ちたる曉の顔附が見ものなるべし。

▲今時の婦人は、兎角半知半解の知識のみ多く、婦人として必要なる常識を缺くと説き廻はる婦人先生、反つて自ら己を表ひやるを知らざるなり。

▲今時の婦人は、少くとも一事一藝を修めて、須らく獨立獨行の覺悟なかるべからずと唱ふるものあるを憂ふるに及ばず。今時の婦人は、女學校在學の當時より、既に理想の家庭スパートホームを夢みるに多忙を極めつゝあるなり。

▲舊時の少き婦人は、夫を持つことを一生の恥かしきことに思ひたるなり。今時の少き婦人は、一生の成功として、持たぬ前から他人に吹聴せんとするなり。兩つながら極端といふべきなり。

▲家庭の觀念は大切に相違なきも、今時の婦人の教育は、餘りに家庭の觀念を吹き込み過はせずや、

## 昔の玉子料理

石井泰次郎

玉子を用意して、いつにても出来る料理法のうち、一寸出来やすく思はるゝは、玉子料理なるべし、さて其玉子料理のなかにて、便利に考へらるゝは、昔の玉子料理なるべし、

### ◎松風玉子の拵方

たまごを其まゝに、鉢に割り込み、よくときて生姜のしぼり汁（根生姜を皮をむきおろし金にてすりおろし布巾に包みてしぼる）少しを入れ又メリケン粉少し入れて、砂糖又は味淋酒の煮切を少し入れ、馬尾節にて、裏ごしにして、玉子鍋に油を敷き火にかけ、暖まりし時、玉子を入れてのばし一分位の厚さに焼いて其上に罌粟をいりて、ふりかけ、焦げぬやうに焼き、見合に切てつかふべし、

二三八

### ◎甘露玉子の拵方

是は上等の古酒五合ほどを、炭火にて温め、よき玉子汁、井にわり込み置きて、よく〜とき合せ、右の酒の中にすこしづゝ、木杓子にて鍋にこげつかぬやうに入れ、かきまわし、扱玉子酒の上に泡立つとき、鍋をおろし、暫く冷やす時は泡きゆるなり、此中へ白砂糖を一斤、金すゐのうにて、ふるひ、少しづゝ入れ（酒を火にかけ砂糖を入れる）又上品の葛粉を小盃一ぱい、外の酒にてよくとき、右の酒の中へ入れ、よく〜掻きまわすべし、

### ◎棕玉子の拵方

上々仙窩紙にて、棕形に袋をして、合せ目を二つ折にして、細き針にて、絹糸にて、底とふちとを縫て、口の所はほそくしてをき、たまごよく〜

とき、白砂糖と酒とを合せ入れ、長三四寸に袋をこしらへ右のたまごをながし入れ、口の所は糸にてくくり、扱鍋に、湯を煎し、此中へ入れ、ふたを取てよくくゆで、扱とり出し、水の中に入れ、右の袋を破りれば中の玉子は、煎貫になるべし、是を笹にて粽にまき、蒸籠に入れて蒸せば、笹の香り入り宜し。

### ◎玉子豆腐の拵方

是は臙豆腐を布の袋へいれしばらく釣し置き、水掣とれしとき、玉子七つ新しきを割り、白味を取り、黄味はのけて用ひず、扱又三つ玉子わりこみ、摺鉢へ入れよくくすりて此中へ右の玉子を少しつゝ入れすり合せ、味淋酒を五勺入れ、とくとすり、扱箱にても鉢にても入れてむすべし。

## 新形西洋前掛(小兒二三才)

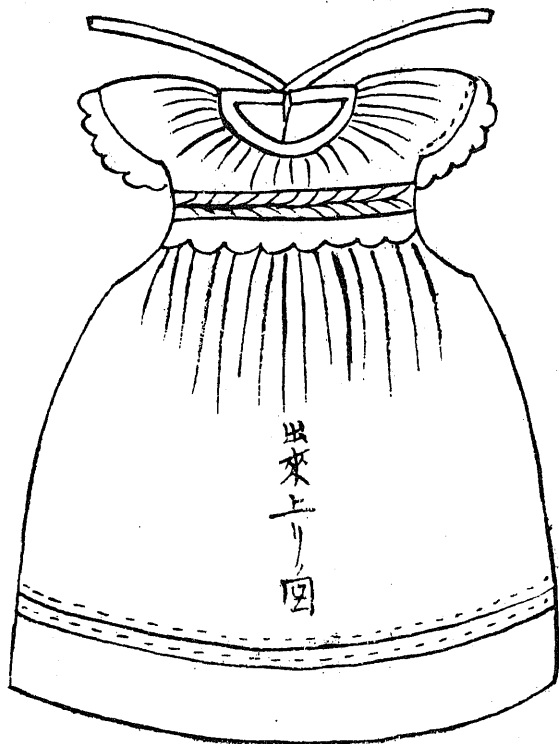
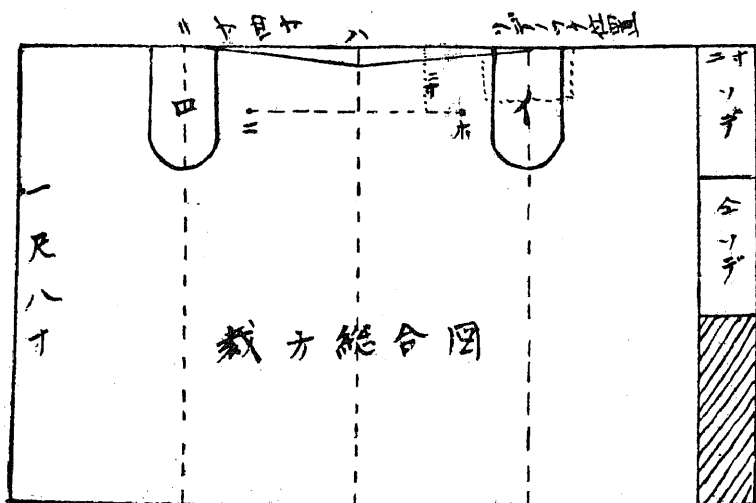
村田かめ子

この前掛は、わづか二尺四寸巾の布一尺八寸で出来上り、かくこうも、餘りわるくありません又仕立方も、容易でありますから一寸皆様に御紹介いたします。

裁ち方、用布二尺四寸巾の中より、袖巾の二寸を真正に裁落し、其あとの二尺二寸巾を縦四つ折とし、折目の方にて一寸巾四分を裁切りて脇明をなすことイ、口の如し。次に首の廻りとなる所をハの如く五分をくりて裁落す。

縫ひ方、先づ袖にレースを付けミシン縫をなし、次に前胸の所を、上より二寸下りて細かく縫ひ四寸五分巾になるようギャダをよせ、(ニ、ホの間)其ギャダの所へレースを置き、其レースの耳の所





へかざりてつぶを載せ、其テップの兩耳の所に  
 ミシン縫を施して胸飾となす。次にレースを付け  
 たる袖を脇明の所へ合せ斜切の見返しを縫付けて  
 袖付をなす。次にへ、トの間を一尺一寸になるよう  
 細かく縫しめてギャダとなし、其所へ一寸巾位の  
 斜切を縫ひ付け四分程の巾になるより裏にすつり  
 つけ、その中にテップを通して結ぶなり。



治まる御世

風のしらぶる松の音

波のうつなる岩つゞみ

鶴もおりたち鶴も居て

治まる御世をまひ遊ぶ

日本國

つがの木のいやつきぐくに

すめるぎの御すぢさかえて

とほつかみ我が大君

高光る日嗣の御子の

つきぐくに幾代かはらぬ

すみかえるそが杉の根の

いはほなす常磐のみどりに

たふとくもたぐへ牽らん

あしはらの瑞穂の國は

ちはやぶる神の御國か

たかびかる日の大御子の

しらす御國は

豊

州

美

蓉

短歌

眞宮起雲選

(地) 山梨大野 敏

春夕へ目しひの乳母に雛糊の供物わからぬ白桃のまど

(人) 京都笹井しげ

めでませし梅の一枝に歌つるし亡き父しのふ春の朝や

(人) 東京田邊 孝

巡禮がすてし小笠のくちめより生ひ出でにけむしる葦草

伊藤天郎

朝明けや霞を揺れてきこゆなり太古に似たる笙の響きよ

山吹の花にかくるゝ窓のうちに歌の小さを獨笑みしか

吉田春蘭

雨をわびてこゝ山里に七日経ぬわが家の緋桃色あせにけむ

櫛の手に春寒わぶる朝戸出や背戸の白梅にほひこほるる

高木紅玉

歌に添えし桃のあかきがこほれたり匂ひの御句永久に忘れじ

宵なれや花ちりかゝる欄干に君が夢さく春の興かな

山口芳水

湧きかへる胸の血潮のとはしりて狂ふかのごう紅梅のちる

平岩學洋

結びては思ひ亂るゝ糸柳のもつれゝにはる風のふく

飯塚曉霞

雲雀高う雲井に鳴きてのどかなる春の終日摘草ぞする

三十二

林 静子

晒貝に歌をしるしてそと笑みてまた波の音に思ひつゞくる

村田藤子

朧夜を料紙召します姫君の笑まひにちるか白梅のはな

井出佐美

瘦せし身をかこつにあらで世の限り道につくさむ我涙哉

竹中清久

花蔭に紙燭またゝく廣庭をさまよう人の小唄ゆかしき

森 貞子

うす絹につゝまれしこと花と我と春を領する朧夜のつき

宵殿の闇の思ひに香をしたひ窓おして見るわが運命かな

吉野 絹

櫻閣の朱塗りあせて鐘寒うゆふ日かすかに花ちりかゝる

夢にして君と登りし高塔をめぐる白鳩あさ日に榮ゆる

田邊 孝

高鳴くや雲雀の姿雲に消えて菜の花十里かすみこめたり

うらぶれて野にくち果てん我世とも見んは興ある蔭の臺かな

大西益子

春探る管笠奏うら若う詩の領よぶひとなつかしき

醜の世に狂ふ手力擧るなしと歎とりて笑む春の畑園

笹井しげ

槐らひて永き秋にをみかくす舞子の肩に花ちりかゝる

花雨を窓にわびぬる籠居こもりや季とれば音のしめりからなる

起　　雲

春明けや仰げばかすむ天地に花とわれとのうたの領かな  
天つ女がけはひの料とかしこみて匂ふに似たり春の草花

◎短歌募集

△課題　隨意

△〆切　毎月末日

△發表　本誌上

△賞品　三光には粗景を呈す

△選評　眞宮起雲

△投稿　用紙は隨意にて左記の所に送らるべし

但添削及返稿を要せらるゝ方は往復はがき

又は切手封入にて送られたし。

「伊勢國白子局區内みどり短歌會」

第二十回俳句端書集

大分

岡山

長野

仙臺

川越

川越

春月

同洋

同舟

同霞

同瓢

同一

同同

同同

同同

同白  
醉樓

同同

同同

同同

閑人

長閑さや羊を追ひつ牧場まで  
 遠山の薄紫や夕ひばり  
 朝風の袖につめたき梅見かな  
 青柳や漁翁はいまだ歸らざる  
 菜の花や紙漉小屋に鶏の鳴く  
 岩蔭に宛かくれぬ残る雪  
 道連の殖えて嬉しき花見かな  
 重さうになりて夜に入る柳かな  
 鉛白を買ふて戻るや月おぼろ  
 一貫の錢を泥手に蜆賣り  
 雨一夜二夜つゞきし初蛙  
 江にかすむ舟四五艘や歸る雁  
 一群は女ばかりや歳がり  
 雲水に物問ふて見る日永かな  
 若草や誰が休らひし尻の跡  
 鐘つゝむ霞の裏や寛永寺  
 大名の行列つゞく霞かな  
 藻鹽焼く煙りも淡し春日和  
 出代の女にすゑぬ二日灸  
 踏つぶす椿數多や寺の庭  
 功名の物語りせよ春の雨  
 乳母車桃の林に引き入れて  
 姿見に八重の櫻や理髮床

甲	大	靜	信	東	近	遠	下	横	群	熊
州	阪	岡	州	京	江	州	總	濱	馬	本
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
泉	き	樂	耕	春	古	愛	梅	醉	文	天
岳	ょ	水	村	綾	杉	水	泉	月	久	外

夜深くつめたき石や春寒し  
 春寒し別れの酒を暖むる  
 不意と顔出して恥かし雪の朝

三光

天 雲雀野や夢踏む人のそこやこゝ  
 地 蛙飛んで湖に動きぬ倒不二  
 人 捨てられて道端に咲く菜花かな

追加

無一庵奇零

濡れて行く絹の脚絆や春の雨  
 鎌肩に小牛をつれて夕かすみ  
 賣物になるや老婦が桃の花



世の中の横幅しらぬ燕哉

柳 居

妻にしも幾人思ふ櫻狩

破 笠

## 保育問答

家事及教育に關する御質問は何でも宜しい質問は端書にて表記は左の通りに願上候

### 女子高等師範學校附屬幼稚園内

フレーベル會編輯員御中

「問」幼稚園にて毎日面白き談話をと申されて困りますすが何かよい本は御座いませんか

「答」左様一冊で澤山だと云ふものは何うもありません様です、殊に四才位に是々、五才六才位に是々と、程度に應じて分けてあるものなどは全くありませんから、其子供衆の様子次第で適宜に鹽梅して遣らねばなりません、それから今刊行してある書物では博文館出版の巖谷小波著

日本昔話(廿四冊一冊五錢宛)同日本お伽話(廿四冊一冊六錢)及同文館出版東基吉氏編童話母のみやげ(定價金六拾錢位)なものでせう、わとは時々保母自ら工夫なさるより外ありません、最も本誌上には絶えず適當なのが載せてありますから御參考なさいませ。

「問」幼児の遊嬉は如何なるものを爲さしめたら宜しいでせうか、唱歌に伴はない遊嬉法で何か面白きものは御座いませんか

「答」新工夫なものは別段に御座いませんが幼兒に御注意なさらしたら幾等も見出し得るだらうと思ひます、女子高等師範の附屬幼稚園で幼兒の行つて居る唱歌に伴はぬ團體的の遊嬉の盛なのは軍事、汽車事、電車事、まゝ事、おばさん事、砂糖屋遊などで重に室外で行はれて居ます

が時々(ときどき)は遊嬉室(ゆうきしつ)では是等(これら)の遊び(あそび)をさせることがあり  
ます、殊(こと)にまゝ事(こと)、お客様事(きやくさまこと)、桃太郎遊び(ももたろうあそび)  
などは一つの組全体(くみかんだい)で保育室(ほいくしつ)ですることもありま  
す、節句(せつく)の雛祭(ひなまつり)などには全園(ぜんえん)の幼児(ようじ)を一所(いっしょ)  
に遊び(あそび)ました、是等(これら)の遊び(あそび)は幼児(ようじ)が毎日(まいにち)小人數(せうじんず)  
で絶えず遊(あそ)んで居(ゐ)ますから夫(それ)を旨(うま)く工夫(くふう)すれば幾  
等(いくどう)も出來(で)るでせう、お手玉(てだま)、球(まり)つきなども色々(いろく)  
面白(おもしろ)く出來(で)るだらうと思(おも)ひますが如何(いか)ですか。  
「問(もん) 私(わたくし)長女(ちやうじよ)三才(さい)に相成候(あいにちやうらいさいに)  
請求(せいきう)されて困(こま)り入り候(いりそうろう)、如何(いか)なる種類(しゆるい)のもの  
話(はなし)し候(こう)は宜(よろ)しきや御教示下(ごきょうしくだ)され度候(たぐそうろう)  
「答(こた) 前頁(ぜんぺい)の問答(もんたう)を御讀(ごよ)み下(くだ)されば最早(もはや)御わ(ご)かりと  
思(おも)ひますから別段(べつだん)御答致(ごたいた)しますまい  
「問(もん) 子供(こども)の玩具(おもちゃ)は自分(じぶん)で片付(かたづ)けさせる様(よう)に努(つと)めて  
居(ゐ)りますが云(い)はなければ致(いた)しません如何致(いかいた)した

ら善(よ)い習慣(しゆくわん)がつきませうか。  
「答(こた) 御尤(ごもつと)もな御尋ね(ごたづ)ねですが是(これ)は片付(かたづ)けないのがわ  
たり前(まへ)なのですからお母様(かあさま)が絶えず後(あと)を逐(お)ふて  
催促(さいそく)するより外(ほか)に仕方(しかた)がありませんとしてお母  
様(かあ)の此催促(このさいそく)は始め(はじめ)は手傳(てづか)の形(かたち)で行(ゆ)かなければな  
りません、此様(このやう)にして何年(なんねん)か繼續(けんぞく)すると子供(こども)に  
は最早確(もはやたし)かな習慣(しゆくわん)が成立(せいりつ)して物の散亂(さんらん)して居(ゐ)る  
のを見(み)ると不快(ふかい)に思(おも)ふ様(やう)になるのです、彼四(かの)  
五才位(さいごらい)の幼児(ようじ)が玩具(おもちゃ)を弄(も)そんだまゝ、投げ出(な)して  
置く(く)のを見て無暗(ひやみ)に叱(しか)り飛ば(と)すのは考(かんが)へない事  
です、夫(そ)れよりも靜(しづ)かに呼(よ)んで「さあ片付(かたづ)け様(やう)  
人形(にんぎやう)は箱(はこ)に、假面(めん)は箆(かき)に」などと手傳(てづか)はせて片  
付(づ)け、散(ち)らかしたら又片付(またかたづ)けると云(い)ふ様(よう)にして不  
知不識(ちふしき)の間に自ら整(みづか)へ、自(みづ)から片付(かたづ)ける様(やう)に導(みちび)  
て遣(や)らなければなりません若(も)し此様(このやう)な世話(せわ)を焼

くのが面倒だと云はれるなら一層教育などは面倒だから止るより外ありません、面倒な世話を不倦不撓續けるので訓練の効果が顯はれるのですから氣長がく慈愛を籠めて御育てなさいませ

「問」子供は蟻、ばつた、てふく、の類を無暗にいぢり散して仕舞には殺してしまひますが、一寸小言云つた位では止まりません、如何致しませうか

「答」近來動物虐待防止會だの、小供動物愛護會だのと慈悲博愛の行爲を奨むる會合がだん／＼盛になり従つて御尋ねの様な質問も大分起つて参りました誠に結構ではありますが是は極端にならない様に注意する必要があります、御尋ねの様な事も極端に子供に遣らせなかつたらば子供は是等小虫に就ての觀察をする時がありません

から、或度迄は放任して置いて差支ないと思ひます、併し子供は存外慘酷なものですから或度以上には注意して無益な殺生をしない様にしなければなりません併し是よりも大切なのは犬や猫をいぢめる事です、世の多くの母様は幼児が小さき虫などを心なしにいぢくるを大層氣になさるが少し大きな子どもが外で犬や猫をいぢめて居るのは御存じない様です、是が爲めに犬や猫の性質が漸々癡惡になつて來る事は記者などの屢實見した所です、兎角餘り極端に走らぬ様にして少しは放任された方が子供衆の幸福かと存じます。

「問」子供に小刀と銃とは危険の様でもありますが一方から考へますと大に玩ばせる必要がある様にも考へます如何なものでせう。



「答」記者も後段の御意見に賛成です、子どもが六七才にもなつて手が少し器用になつて來たらば大に弄ばせる必要があると思ひます、記者なども子どもの時には危険くとして刃物は一切持たされなかつたので未だに何にかに付けて不器用で困ります、子供に刃物、成程危険の様ですが存外大した怪我はないものです、時々指先を傷け手の皮を剥ぐ位の事はありますが是は小刀類の持ち始めは大きくなつた子供にもあるので一度は誰も通らなければならぬ所ですから之れを心配しては子供の發達を鈍らせる許りです、唯吳々も注意する必要のあるのは是等の刃物を決して常に携帯させない事です、此意味で云ふと子供に刃物は頗る危険であります、地方などで子供が刃物を携帯して居つた爲に意外な

危険に陥つた事のあるのはよく聞く處であります。

三十八

伊太利の一教育家此程痴兒教育なりとて或人に語りて曰く「何故なるか」との語は小兒が感覺の時代より推理の時代に移る門戸なり。故に小兒を教育するには最も分り易き方法にて言語が事物、行爲及び感情を表はすことを第一に教ゆ可し。小兒に興味を興へざることは決して話す可からず。少くとも己れの教へんとすることに強いて小兒の注意を求む可からず。如何なる事を質問するゝとも必ず之に答ふ可し。小兒が満足なる答をなさるゝことあるも決して不快なる容親を爲す可からず」と



雜 錄

●女子高等師範學校彙報 同校本年度入學者の模

樣を聞くに

文科入學志願者三〇〇人の中合格者三三人

理科 同 三五四人の中 同 二六人

技藝科同 一五五人の中 同 二六人

にして尙目下詮議中に屬する家事科專修科志願者は二〇七人なりと云ふ。左に載するは去二月施行せられたる本科入學試験問題なり。

漢文科問題 (文科)

○解釋 (二時間)

- (一) 夏秋閒。里中郷隣收麥禾。屢女春綴。乃必星夜而起。爲二日饋食。以給父。未嘗貽勞。又必日一反而面。雖大風雨。未嘗變。即有得滋味。雖微物。必持歸。非餒不致食。以故每女出。父倚閭而望。至輒忻然喜。如孀子慕母然。
- (二) 上使使者奉安車蒲輪。束帛加璧迎。魯申公。既至。問治亂。

之事。公年八十餘。對曰。爲治者不。在多言。願力行何如耳。右二題とも送假名を施し意義を通解せよ

國語科問題

解釋 (文科) 三時間

(一) 左ノ文章ヲ通釋セヨ

已れ京に上りて在りし程宿れりし所は四條大路の南烏丸の東なりけり家はや、おくまりてありければ物のけはひうとかりけれど朝夕門に立ち出でつゝ見るに道も廣くはれ、しきに往きかふ人しげくいと賑は、しきは田舎に住みなれたるめうつしこなくてめさむるこちなむしける京といへどなべてはかくしもあらぬを此の四條大路などは殊に賑は、し天の下に三ところの大都の中に江戸大阪はあまり人のゆき、多くらうがはしきをよき程の賑はひにてよろづの社々寺々など古のよしある多く思ひなしたふとくすべて物きよらによるづの事みやびたるなど天の下にすまひほしきはさはいへど京をおきて外にはなかりけり。

左ノ辭句ニ讀方並ニ略解ヲ附セヨ

- (イ) 九重の庭百數の内
- (ロ) 榻にたてたる網代車
- (ハ) 本領安堵の御教書
- (ニ) 野伏山立の張本
- (ホ) 一辭ありけな面魂
- 同 (理、技科) 二時間

垣武の帝奈良の都より山城ノ國長岡に移りおはしけるが今の都の地山河豫帶の勝境なる事をしめして長岡より重ねて此所に宮所を移させたまふ此の地四方の最中に在りて平原の地なり且中州の奥區にて上流に在り山川水土他境にすぐれてうるはしく帝城となりぬべき天府の國なれば萬代不易の地なるべしと定めさせたまひ諸民の同じくよろこび祝へる言に従ひて平安城と名づけらる凡此の都内外の名區櫛の如くつらなり陳迹甚の如くに布ける事を京なる人だに知らざるも多かりいはむや都より始めて來りし人其の敵邑にならひて上邦を見ざる輩は未だ名勝のある所を知らじ又此の都に住める人も古語に蓼蟲不知辛といへる如く平安の名の此の都の風土の實にかなへる事を知らで過こす事なからじやは

(注意)右文の讀み方並ひに解釋をなすべし

文法 (文科) 一時間

- (一) 上一段活用の動詞を列舉せよ
- (二) 名詞動詞が副詞となる場合を例示せよ
- (三) 左の文を單語に分解して其品詞の名稱を記せ  
汝の志眞によしされど將來身を立てむと思はまづ朋友を求めよこれ處世の要訣なるぞ
- 同 (理、技、科) 一時間
- (一) 動詞と形容詞との差異を記せ
- (二) 左の文に誤あらば正せ

溪に沿ふて進まば山高く聲へ水清く流れて塵外の趣あり枝にさいする鳥花にたわむる蝶も欣々春をよろこぶものゝ如く積日の勞苦も一掃され足の疲るを覺へず

數學科問題

算術及幾何(文技科) 二時記

- (1) 長さ二百五十尺ノ列車が一時間五里ノ速サニテ長サ四百七十尺ノ「トンネル」ヲ通過スルニハ幾少サ要スルカ  

$$(2) \quad 0.13 \frac{5}{7} \times 2 \frac{11}{12} + 0.165 \text{ノ結果ヲ分數ニテ表ハス}$$
- (3) 金百圓ヲ以テ三俵ニツキ十四圓ノ米ヲ買ヒタルニ二十一段ト端米一斗五升トヲ得タリト云フ一俵ハ幾升入ナルカ
- (4) 八ヶ月ノ後拂フべき約束手金三百六十四圓ヲ今直チニ拂フトキハ何程ノ損アルカ之ヲ年六分ノ歩合ニテ計算セヨ
- (5) 平行四邊形ノ相隣レニ邊ノ中點ヲ過セルツノ直線ニテ之ヲ二ツノ部分ニ分ツトキハ其二ツノ部分ノ面積ハ如何ナル比ヲ有スルカ  
  - (1) (3) (4)ノ問題ニ就キテハ運算、答解、ヲ記シ(2)ノ問題ニ就キテハ運算、答ヲ記スベシ
- (1) 算術 (算、算) 一時間  

$$\frac{2}{29} = \text{如何ナル整數ヲ乗ズルトキハ} 0.794 \text{ニ最も近キ數ヲ得ベキカ}$$
- (2) 姉妹アリ姉ハ金六十圓ヲ所持シ其中ヨリ毎月三圓三十錢ヅツ消費シ妹ハ金二十圓ヲ所持シ之ニ毎月二圓七十錢ヅツ積ミ足ストキハ幾ヶ月ノ後二人ノ所持金相等シカナルカ

(3) 甲乙二港ノ間ヲ航海スル汽船アリ 零落ノ速サニテハ四十時間ヲ要シ高度ノ速サニテハ三十時間ヲ要ス然ルトキハ此二港ノ間ヲ航スルニ當リ費セシ時間ノ三分ノ一ハ高度ノ速サニテ其餘ハ尋常ノ速サニテ進行セソニハ幾時間ヲ要スベキカ

(4) 年利六分ニテ預ケタル銀行預ケ金ヲ引キ出シテ毎年一割ノ配當ヲナスベキ某會社株五十圓券ヲ八十圓ノ時價ニテ二百四十株買ヒ入ルルトキハ一年ノ收入幾何ヲ増ハスベキカ

(5)  $\sqrt{\frac{2}{3}}$  ナ小數第四位ニテ正シク求メヨ

(1)ヨリ(4)ニテノ問題ニ就キテハ運算、答解ヲ記シ  
(5)ノ問題ニ就キテハ運算ノ答ヲ記スベシ

幾 何 (算 法) 一 時 間

(1) 圓外ノ一點ヨリ其圓ヘニツノ切線ヲ引クトキハ切點ヲ結ビ付クル直線ニテ直角ニ二等分セラルルコトヲ證明セヨ

(2) 斜邊ト一邊トノ和及他ノ一邊ヲ與ヘテ直角三角形ヲ作ル方法ヲ記シ且其理由ヲ述ベヨ

理 科 問 題

植物、動物、生理 (文、技科) 二 時 間

(一) 諸器官悉く花托ヨリ生ズル完全花の一例を舉げて各器官の數及び排列の狀を記セ

(二) 葉脈の種類を記セ

(三)(四)(五)(六) 節脚動物の綱を舉げて之れに各一二の例を附記セヨ  
蝶類と蛾類との形態上の別を問フ  
動脈と靜脈との構造上の別を記セ  
人體に必要な營養素の種類を舉げヨ

(一)(二)(三) 理科の植物、動物、二時間  
種子房に生ずる胎坐の主たる種類を記セ  
植物呼吸の結果は如何にして證明せらるゝか  
本邦の内地に産する單子葉植物にして樹木狀を成すもの二種を舉げヨ

(四)(五)(六) 動物の例を舉げて寄生と共生との區別を記セ  
兩棲類及び魚類の心臟の構造を記セ  
水中に生活する普通の甲蟲類二種を舉げヨ

理科の生理 一時間  
食物中諸種の營養素は如何なる途を取りて血液に入るか  
觸感の主たる神經末器の構造及び所在を記セ  
血液の成分中血漿及び赤血球の作用を問フ

(一)(二)(三) 物理 (文技科) 一時間  
吾人鏡に向へば鏡の後に像を生ずる理由を圖解セヨ  
熱量と比熱との區別如何  
(理科) 二時間

(一)(二)(三) 同  
水壓機の原理如何  
望遠鏡を以て物体を見たる形態を圖解セヨ  
れーでん瓶に就て知れる所を記セ

化學 (文技科) 一時間

(一)

左の諸化合物は如何なる元素より成れるか

(い) アムモニヤ (ろ) 硫酸 (は) 硝石

(に) 炭酸ソーダ (ほ) 燈用石油 (へ) 濃粉

(と) アルコール (ち) 蛋白質

セルローズ(纖維質)に濃硝酸と濃硫酸の混合液を作用せしめて得る主要なる製品を記せ

同

(理科) 二時間

水溶液より水と溶解せる物質を分つ方法を記せ

左の場合に於て生ずる物質を記せ

(い) 石灰石に鹽酸を注加す (ろ) 鹽化水素とアムモニヤを混す (は) 銅片に濃硫酸を加へて熱す

硝酸及び硝石に就て知れる所を記せ

石灰の乾溜により製せらるゝ重要物質の用途を記せ

裁

縫

(四)(三)

一筆

科 (技藝科)

答 二時間

表地中幅物一反と裏地並幅物とを以て袖丈一尺六寸身丈二尺六寸五分出來上りの本裁女被布一枚を仕立てんとす左の各項を説明すべし

1. 裏用布の總尺數

2. 表裏の裁ち方圖及各部の名稱、裁ち切り寸法

3. 表裏地積り方の算法

片面物大幅ニヤール半にて大人シャツの裁ち方を圖解し之れに各部の名稱、寸法を詳細に記入すべし

〇實地

二時間

與ふる所の材料品により左の二題につき實地に裁縫すべし

1. 給男物の左前縫

但し全体の寸法は實物の二分の一とし衽は實物通りになすべし

2. 大人女被布の小衿

但寸法は實物通り

圖畫科問題 (技藝科)

〇毛筆畫 二時間

(一) 墨畫

(二葉)

(二) 花弁線畫

硯、墨、筆

配置よく寫生すべし

(二葉)

●幼稚園の理想的建物

是は近頃北米カリフォルニア州バサデナなるワシントン、スクールの構内に新に設立せられたるものにて、地方に於ける幼稚園設立の參考ともなる可ければ茲に摘載せん。

其建物は平屋造りにて、土臺は丸石にて積み、家は黄ばみたる濃綠色に塗られ、周圍には有加利樹、プレビリヤなど植え込まれたり。而して有加利樹

の下には、輪繩、棒、横木、ブランコ等の戶外遊具置かれ、其木の一方にはフードホールの場所あり、其向ふ方は平庭となり居りて茲に幼児は各自所轄の小さき花園を有し、各自好める草花を栽培し得る様作られたり、又庭の南方には、器用なる園丁の細工にて、望樓を作り、其下には立食にも用らるゝ長き卓を設け、周圍には腰掛をも作る由、管理者は尙庭内にウイステイリヤ、ソラニウム等兒童の攀上に適する樹木を植え、近くは楡樹をも植え込む由、而して望樓の前には砂場作られたり。

保育室は大小二あり、一は四間に六間に南方稍張出して茲に窓あり。齒痛腹痛等の苦しむある幼兒を寢せしむるに便し、室の一隅には終に高き座席を有する造り付けの腰掛あり。此中に玩具、フ

ートボール、豆袋、投げ紐、など仕舞はれ、他の一隅には水槽造り付けられて、茲に金魚を養ひ岩や水草を以てあしらひ、水槽の周邊は植木鉢を置き得る様廣く造られたり。尙傍には蛙、蛇、など養はれ、其上の壁には漁網、貝殻、海草など掛けられたり。是は三十哩離れたる海岸の様子を知らしめんためなりと云ふ。

黒板は幼児に適する様低く造られ、此上方に棚ありて花瓶など置かれ、黒板の上は麻布の幕にて被ひ繪などピン止になし得る様作られたり。此室の兩端には、二間の入り込みフランス窓あり、其前は屏風の如く板にて圍み幼児の落つるを防げり。幼兒の作業する机は室の一方にあり。他方には繪本など載せたる小机あり、小さき方の卓には金魚鉢あり。是は水槽中の金魚は常に岩や水草の下に

隠くる、故に觀察の便利の爲めに茲に出し置くなりと云ふ。

此大なる室に續きて、四間に二間五尺の室あり、兩室の間は二間四尺の間アーチ形に開けられたり。此小室の一方は外套部室あり。室の一方に腰掛造られ、其下は隣室より使はるゝ様引き出しが作られたり。此隣室には園丁のために万力などある仕事臺金槌、鋸、釘、鉋、など入れある引出しを備へ、尙幼兒の庭道具園丁の箒、雑巾、バケツなどの藏められ尙保姆の爲めに設けられたる戸棚、腰掛を用意し釘など打ちある小房亦此中にあり、是等の腰掛臺は各他室の引き出しを被ふ様造られたりと云ふ。小ざき建物を經濟的に使用し且つ種々なる方面に遺憾なき設備を整へたるは近頃面白きものなり。

●女子の詩文を募る 神田仲猿樂町一九育成研究會にては隨意題にて女子の詩文を募る由知人より報知あり佳作には相當の報酬ある由なれば暇ある讀者は奮つて投稿しては如何。

●米國の教育寄附金 各種の事業に對し昨年中美國に於ける一個人の寄附金にして千弗以上のものを合算すれば六千六百十萬餘弗即ち邦貨一億三十二萬廿餘圓に達したる由而して諸種の寄附金中教育事業の爲めに投ぜられたるもの最も巨額なりと云ふ米國にして尙且然り、君子國を以て居る我邦の前途遼遠なりと云ふ可し。

●新式安全ブランコ 本郷區東片町一一九番地なる菊地三五郎なる人標題の如きブランコ用懸垂腰掛を製し本會に寄附せられたり幼兒に使用せしめたるに一寸都合よきものなれども今少し大きく作

りたらんには至極よき運動具の一となるべし。

●お伽講話會 去る二月十七日神田青年會館に於て催ふされたる同會は久留島某の計劃に成りてピアノ、ヴィオリンの獨唱、野村海軍中佐の海戰談其他巖谷小波氏のお伽談等ありて可成の盛會なりき。

●我國に於ける死産兒 産科婦人科に關する醫術の進歩に連れて、死産兒の數の年々減少するは歐洲邊にては普通の事と云はるゝに、我國に於ては之に反して、年々其數を増加すること奇怪なれ。明治十九年に於ける死産兒數五八三五〇なるに夫れより、年々増加して十六年後の明治三十五年には一五七七〇八となり、約三倍の巨數となれり。是は戶籍法の不備にも因る可しと雖も、兎に角注意す可き現象なりと云ふ可し。

●學校の塵埃 文部省囑托醫駿河氏は過日左の主旨の警告をなしたりと云ふ。

近來學校生徒に眼病患者の多くなりしとは事實なりとす。殊に紡績工場、煙草工場の工女に眼病の多きこと著しとす。其原因は種々ある可しと雖も、室内に浮遊する塵埃は、最も媒介の原因の様に思はる。我國に於ける調査は未だ詳かならざれど外國の例を見るに

一、獨逸國マイリヒ氏の調査に因れば一グラム(二分六厘六毛)ノ塵埃中微菌種一百万を認むと云ふ

二、露國イグナチエフ氏の莫斯科市の三個學校に於ける調査

一立方メートル(我が約三尺)の校内空氣中に授業前一六、五〇 授業中一四、八三三



授業の終二〇、六二五の黴菌の存在するを

認む

三、佛國レツシ氏のベルリン市の學校に於ける

調査

授業前二〇、〇〇〇 授業中一六、五〇〇

授業後三五、〇〇〇を認む

四、英國カル、チリ！氏の奇麗な子供を收容せる學校に於ては

六三、〇〇〇

不潔なる生徒を收容せる學校にては

一五九、〇〇〇

の黴菌を立方メートル中に認めたり

五、同國ドーヴ氏が英國西部の八箇の學校に於

ける調査

生徒の靜座中二万乃至四万八千、生徒の出

入する際四萬六千乃至廿五萬六千の黴菌を

立方メートルの空氣中に認む

而して此等の塵埃中には無論有害なるトラホーム

肺病等の黴菌の存することは明なりとす。聞く所

に因れば獨逸にては此塵埃を防ぐために床油を用

ゆと云ふ。されば學校及家庭に於ても此塵埃を靜

止する方法と研究し且つ仔細に注意せられんこと

を希望す云々。

●家婢教育 新潟縣女子教育會にては家庭教育家

事教育の良否は家婢の善惡に關すること多しとの

故を以て、家婢教育を開くの決議をなし來る四月

より毎土曜日毎に修身、家事、裁縫、讀書の各科

を授くと云ふ。吾人も固より賛成する所なれども

以上の學科の外に尙幼兒保育の一科を加へたらば

一層の效果あらんかと思はる。

●感すべき英國婦人　クリミア戦争に名高きナイチンゲール嬢の夫にも劣らぬ至大の博愛慈善の精神を然も近頃我國に於て發揮せる感ず可き英國名をハンナ、リデル嬢と云ふ。嬢は去る明治卅三年本邦に渡來してより今日に至る迄専心慈善事業に盡力したる廉を以て今回賞勳局より左の如く藍綬褒賞を賜はりたり。實に奇特なる事と云ふ可し。

夙に慈善事業に志厚く明治三十三年英國傳道會社の囑を受け本邦に渡來し偶々熊本市本妙寺に遊び路傍に乞食せる癩病患者多數あるを見て慘然として惻隱の心を起し遂に之れが救済を企圖し爾來百難を排し資金を募り經營數歲終に熊本回春病院を創め尋で會社の囑托を辭し専ら力を維持擴張に盡し已に其の患者を收容するもの八十六名財を費すと五萬餘圓又出張所を

設け施療せしもの前後四百餘人の多きに及ぶ其成績著明なりとす依て明治十四年十二月七日勅定の藍綬褒章を贈與し其の善行を表彰す

●動物愛護會　日本の進歩と文明とを賞賛する外國人も一度來りて我國人が動物を虐待する有様を見ては喫驚せざるものなきは一般の事實なるが故に前には心ある人々相集まりて動物虐待防止會を起し今又其別動隊として標題の如き會の催されたる廿四日午後一時本郷會堂にて講話會ありたる由誠に美事なりと云ふ可し、殊に動物の愛護は兒童をして不知不識の間に自然研究に導くの方便たるを得可く吾人は斯る會の益盛ならんことを望む。

●女子高等師範の保育實習科　豫定計畫中なりし該科は愈來る四月より實施する由にて入學志願者を募集し居れり。師範學校又は高等女學校を卒業

して地方幼稚園の主任者とならんとする人には最も

適當のものなるべし。

願書は四月廿五日迄に差出す可く入學試験は左の通りなりと云ふ。

試験科目

國語

讀方、解釋、作文(修業年限四ヶ年  
高等女學校卒業程度)

音楽

單音唱歌、樂器用法

身体

試験場

女子高等師範學校附屬幼稚園

試験日

四月廿七日午前九時ヨリ

●女子高師範の卒業式は去る卅日舉行せられた

り。春雨靜かに降りて氣も心も穩かなる時新任

々の文部大臣牧野氏を主賓として壯嚴なる式は同

校内の大講堂に於て開かれたり。校長高嶺氏は折

り惡しく病氣なりしかば飯盛教頭代つて證書を授

與し、告辭は町田教授代讀せられたり。夫より新

任文部大臣牧野氏は立つて祝辭を朗讀し尙卒業生の前途に向つて親切なる注意を與へ各赴任後は家庭と學校とを親近せしめて兩者の教育を調和し、教育をして一層の效果あらしむる様努力せられんことを希望せられたり。

有 鐘 者 は 快 く 熟 睡 す

(エザソン)

一 の 快 樂 に は 千 の 苦 痛 伴 ふ

(英國 諺)

早 く 熟 く す る も の は 早 く 腐 る

(拉丁 諺)

自明治卅九年二月廿六日  
至同三月廿七日

年  
月  
日

四〇	四〇	四〇	四〇	二〇	一五〇	一二〇	一三〇	一二〇	三〇〇	六〇	六〇	四〇	四〇	一〇〇	一〇〇
三八、一一	三八、一一	三八、一一	三八、一一	三九、一	三八、八	三九、四	三九、一	三九、一	三八、七	三九、一	三八、一一	三八、一一	三八、一一	三八、一二	三九、五
三九、二	三九、二	三九、二	三九、二	三九、二	三九、一〇	四〇、三	四〇、一	三九、一二	三八、一一	三九、六	三九、四	三九、二	三九、二	三九、九	四〇、二

寺柳武竹小中儀平萩頼近吉尾中佐大神	島澤田島池島越俄河野藤村田村伯羽田	とてき茂み雪八文長かよげ鶴いう溟久順	名
-------------------	-------------------	--------------------	---

一三〇	三九、二	四〇、二
六〇	三八、九	三九、二
五〇	三九、三	三九、七
一二〇	三九、一	三九、一二
六〇	三八、一二	三九、五
一二〇	三九、四	四〇、三
一〇〇	三八、七	三九、四
六〇	三八、七	三八、一二
四〇	三八、九	三八、一二
六〇	三八、七	三八、一二
七〇	三八、六	三八、一二
一四〇	三七、一	三八、一二
六〇	三八、七	三八、一二
六〇	三八、七	三八、一二
一〇〇	三六、七	三七、四
六〇	三九、一	三九、六
二〇	三九、一	三九、二
三〇	三九、一	三九、三
二〇	三九、二	三九、三
一二〇	三九、一	三九、一二
四〇〇	三六、六	三九、九
一六〇	三八、一二	四〇、三
五〇	三八、一二	三九、三
四〇	三八、二	三九、三

片山 西島 八田 山口 篠原 山内 小出 今立 小笠原 岩川 三田 竹澤 市川 小岸 羽田 深江 岡田 岡田 村上 太田 久米 高原 森野  
山 島 田 口 原 内 出 立 原 川 田 澤 川 岸 田 江 田 田 上 田 米 原 野  
き 富 さ ま と 定 末 立 茂 い 利 さ 源 ゆ う き と 千 光 先 捨 み 直 吉 つい

小林 千年  
桑原 いは  
村尾 まさ  
高橋 シゲ  
浅羽 静枝  
宮澤 たまき  
林 節  
高田 萬壽  
秋山 恒  
嶺 ふき  
林 玉子  
松木 かつ  
館 づれ  
増田 卯之助  
東 志那  
岩尾 蘭  
甲斐 なほ  
三野 とき  
野副 とよ  
福尾 きく  
星野 きく  
加藤 萬代  
石山 春惠  
菊地の りよ

一〇〇	三八、五	——	三九、二
一〇〇	三八、一	——	三九、八
一二〇	三八、八	——	三九、七
一〇〇	三九、三	——	三九、二
一二〇	三八、三	——	三九、二
一〇〇	三八、一	——	三九、八
一三〇	三七、五	——	三九、三
一〇〇	三八、一	——	三九、八
二〇	三九、二	——	三九、三
四〇	三八、二	——	三九、三
一二〇	三九、二	——	四〇、一
五〇	三九、一	——	三九、五
二〇	三九、三	——	三九、四
一〇	三九、三	——	
二〇	三九、二	——	三九、三
三〇	三九、一	——	三九、三
六〇	三九、二	——	三九、七
二〇〇	三七、二	——	三九、六
五〇	三九、一	——	三九、五
一〇〇	三八、六	——	三九、三
一一〇	三九、二	——	三九、二
二〇〇	三八、八	——	四〇、三
一〇〇	三九、一	——	三九、一〇
一〇〇	三八、一	——	三九、八

新井博次  
赤間よね  
奈良あい  
柳きん  
淺井泰  
高山ふみ  
吉川ふみ  
高木あき  
吉澤とも  
南枝ちよの  
岩井廣  
久保みつ  
波佐谷みち  
尾田けい  
斯波やす  
野原つね  
池永ゆき  
源さう  
長岡榮  
松木まつ  
杉浦いね  
大塚さだ  
立花せん  
吉田はる

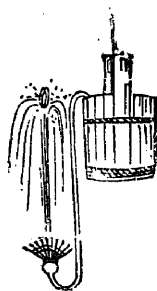
二〇〇	一〇〇	一五〇	四〇	一二〇	五〇	一八〇	九〇	一二〇	一五〇	一二〇	三〇	六〇	一五〇	一〇〇	一〇〇	一二〇	一〇〇	五〇	一〇	一〇	一二〇	四〇	一五〇	一〇〇	二〇〇
三八、一二—四〇、七	三八、一二—三九、九	三八、三—三九、五	三九、一—三九、四	三八、一二—三九、一一	三九、一—三九、五	三八、七—三九、一二	三八、七—三九、三	三九、一—三九、一二	三九、一—四〇、三	三九、一—三九、一二	三九、一—三九、三	三九、五—三九、一〇	三九、一—四〇、三	三八、一〇—三九、七	三九、二—三九、一一	三九、二—四〇、一	三八、六—三九、三	三八、一一—三九、三	三九、三	三九、三	三九、二—三九、三	三八、一〇—三九、九	三八、一二—三九、三	四〇	一二〇

松本菊次郎	磯畑せい	高野わさ	木内成	青山初重	島海順	村山もと	田中ふみ	濱まつ	杉本園	海野きみの	吉田しげ	森乙女	齊藤たき	永井満	關しん	谷斯文	中松秀	黒田定治	堀越源次郎	立花はる	市原すみ	司馬のぶ	多田きう
-------	------	------	-----	------	-----	------	------	-----	-----	-------	------	-----	------	-----	-----	-----	-----	------	-------	------	------	------	------

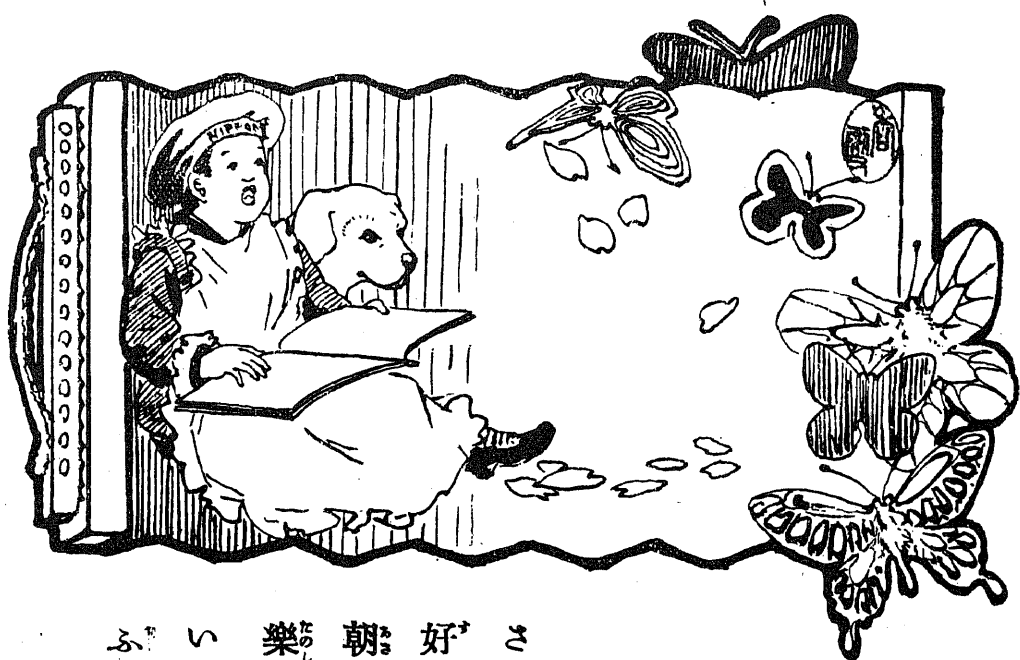
一〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	九〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二〇	三〇
三九、三	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三八、七	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、一	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、二	三九、一
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三九、三

丸山かく	岩川ひさ	平山よ	大堀清之助	山田いと	津原ちか	尾立とみ	清野くに	長谷川りん	十出雷吉	岩田よね	金原てい	岩崎たつ	溝口慶	稲垣實秀	保科條	一關すて	菊地徳二郎	阪本なる	大川涙	吉岡美鳥	齋藤しげ	土方鋳太郎	春田隆
------	------	-----	-------	------	------	------	------	-------	------	------	------	------	-----	------	-----	------	-------	------	-----	------	------	-------	-----

佐藤むめ  
小谷野かれ  
田坂りつ  
十文字こと  
石川よれ  
近藤茂  
竹澤さと  
佐々木まざみ  
高橋しげ  
加藤つね  
星野ひさ  
堤てつ  
河合ちよ  
三宅はな  
松本しげ  
大和田りよう  
關谷いま  
山田やを  
長興のぶ  
中桐確太郎  
宮崎そよ  
玉井房之助  
三須とし  
酒井冬

[illegible]

北野 松浦 鈴木 山田 戸野 岡山 野村 柴田 笠井 野澤 脇屋 内藤 吉田 松山 志村 鍋島 今井



# 切のないお話

やまとの翁

さてもある國の殿様に、大層お話の  
 好きな方がありました。毎日々々、  
 朝から晩まで、お話を聞くのを  
 楽しみにして、他の事は何一つなさ  
 いません。一つのお話がすんでしま  
 ふと、も一つ、も一つといふ風ですか



ら、御殿中の役人達も皆、知ってる丈の話をし盡して仕舞って、今では誰も話手がなくなつてしまひました。

そこで、殿様は「誰か、切りのない話をして聞かせる者があつたら、其者に一人のお姫様をくれて、この國の後繼にしよう、けれども、若し、切がないといつて出ながら、若し途中でお終になるといふ事だつたら、其者の首を斬るといふお布告を出しました。

さあ、このお布告が出るといふと、吾もくと澤山な話人がやつて参りました。そして恐ろしい長い話をしましたが、夫でも一週間か一月か續けて話をすると、もうお終になる、可愛相に、お終になるといふと、褒美が貰へない許りでなく、反對に首を斬られるのですから、出来る丈け長く話をひっぱって見たけれども、どうせ皆駄

目で早い遅いか皆お終になつて仕舞つて、一人も残らず皆首を斬られてしまひました。

何か一番お仕舞に一人の話人がやつて参りまして、何日までも續く話を申し上げたいといひます。で役人共は、この男を見て

「今迄、随分澤山な話人がやつてきて、いろんな話を殿様に申し上げたが、誰も彼も皆首を斬られた。お前もそんな目に遭ふよりは、いっそ已めた方がよからう。」

と言つて見ましたが、この男は少しも恐れません、是非話させて下さいと言ひはりますから、夫ではといふので、殿様の御前へ案内せられました。

殿様は、この男を見て、

「あゝお前かい、お終のない話の出来るといふのは、どんな話だ、さあ早く聞かせてくれ」と仰せられる、すると、その男は

夫では御免被りまして、只今から始めます。さて、むかしくまづある國に、一人の慾の深い殿様がございまして、どうかして世界一等の富者になりたいと思つて、方々の國へ攻めて行つては、他の國の米を掠奪つて参りました。そして自分の國には山ほども大きな倉を立てゝ、その米を皆其處へ入れることにしましたから、終には米がその大きな倉へ一杯になりました。そこで殿様は、倉の入口も窓も皆堅く封をして、四方八方きっちりしめてしまいました。

さて、夫程嚴重にこの倉に隙間のない様にしたのは宜しかったが、

こゝに困つたことがありました。夫は左官屋が壁を塗る時、ごく小さな空のあつたのを塞ぐことを忘れて居たのです。しますと、或日のこと、澤山な蟻が這ひ上がってきて、この穴から其米を引き出さうとしました。けれども穴がいかに小さい爲に、一匹づゝしか這入ませぬ。夫で先づ一匹の蟻が中に這入って行つて、一粒のお米を引き出して参りますと、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引き出して来る、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引きだして来る、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引きだして来る、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引きだして来る、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引きだして来る、其次に又一匹這入って行つて、も一粒引きだして来る——

彼の男はこんな風に、朝から晩まで、たゞ食事の時間丈け休む許りで、大方一月の間話しつゞけました。殿様もお話にかけては、餘程辛棒強い方でしたけれども、一月のお仕舞頃には、もう厭になつたと見えて、

「あゝよし、その蟻の話はもう夫で澤山だ多分蟻は、そうして米を残らず取り出して行つたのだらうと思ふが、さて其後はどうしたのか、夫が聞きたいものだ、

と仰せられると、話人は

御前様には、この後をお聞きになりたいと仰つても、前が濟まない中に、後をおきかせ申すことは出来ませぬ」

というて、又話をつゞけました。



七

「夫から又一匹の蟻が這入って行って、又一粒を引き出して来る、夫から又一匹の蟻が這入って行って、又一粒を引き出して来る、夫から又一匹の蟻が這入って行って、又一粒を引き出して来る。……、今度はこんな風に半歳の間、話しつづけました。其間殿様も、じっと辛棒して聞いていらした。だが又た、お言葉をお入れになつた

「あゝ蟻のことはもう聞き厭いたわい、一體何日になつたら、其米を引いてしまへるのか」

「何日と申しまして御前、今やと一合位のお米を引いた所なんですから、夫に穴の周圍は、一面に蟻で眞黒になつてゐるんですもの、然し、もう少し御辛棒なすつてお聞き下さいまし、何れ其中

には私のお話もお終になりませうから」

これに勵はげまされて、王様おうさまは、又我またが慢まんしても一年いちねん、じつと聞きいて居ゐりますと、話人はなしびとは前まへの話はなしを其儘そのまう續つづけて行ゆきます。

「さて夫れから又一匹の蟻が這って行って、又一粒のお米を引き出して来る、夫から又一匹の蟻が這入って行って、又一粒のお米を引き出して来る、夫から又一匹の蟻が這入って行って、又一粒のお米を引き出して来る、夫から又一匹の蟻が……  
 といつて又半歳話しつゞけました、幾ら辛棒のよい殿様でも、とう／＼堪え切れなくなつて、

「あゝもうよい、夫で澤山だ、姫もやる後継にもしてやる、欲しいものは何でも持て行け其代り蟻の話丈けはよしてくれ。



そこで、とう／＼この話人はお姫様を頂くことになって。殿様の後繼にまでなりました。夫からは誰も、このお話の後を聞かしてくれといふものがありませんでした。と申しますのは、其話人の言ふには蟻が残らずお米を持ち出して仕舞てからでなければ、後のお話をする譯に行かぬ、といって居るからです、さて、この時からして。この殿様は、決してお話を聞かせてくれくといはない様になりましたとさ

めでたしく／＼



◎ 新 刊 廣 告 ◎

華族女學校學監 下田歌子女史新著

# 女子の修養

廿世紀女子教育の生粹  
新家庭經營整理の寶鑑

本書は著者が女子教育の往々形式のみに流れ其の實質を失ふの憾あるを慨き嶄新の學理を緯とし平素の經驗を経としてもものせられたるもの文章平易所說懇篤凡そ廿世紀に處する女學生及び閨秀の本分を全ふせんを期するもの須く本書なかる可からざるなり

和裝全一冊  
頗ル美本  
正價金六十錢  
郵税金八錢

發 兌 元

東京京橋區南大工町一番地

弘 道 館

# 家庭新教育書と無類の少年讀物

家庭教育の新參考書

醫學博士 瀨川昌耆先生 著  
福岡師範學校附屬主事 織田勝馬先生 共著  
長崎高等女學校教諭 白土千秋先生 共著  
好評三版發賣

雙子と貧乏神の救済の原理及養育方法

●我子の學校成績をよくせんとする人は速かに此書をやめ  
●家庭教育に熱心なる母親父親は先づ本書をひもとけ  
●洋裝菊判形美本全一冊 王費金六十錢 郵税六錢  
●樋口勘治郎先生著 ○尾竹國觀 ○一條成美 口繪挿畫

歴史 強い日本

●戰勝紀念少年の有益な讀物  
●少年家庭唯一の讀本  
●樋口蘭林先生作 豐宮川春汀畫  
●菊判形美本正價十錢 郵税四錢

歴史 熊襲征伐

●これぞ類のない珍本である  
●家庭でも學校でも芝居が出来る面白き本  
●家庭少年最良讀物 ●菊判形頗美本價十錢 郵税四錢

樋口勘治郎先生著 國觀 ○春汀畫

日本の覺悟

●菊判形頗美本 口繪挿畫十數  
●個定價金十五錢 郵税六錢  
●樋口蘭林先生作 ○宮川春汀畫

歴史 入鹿退治

●菊判形全一冊 口繪挿畫六葉 挿  
●入價十五錢 郵税六錢  
●農學士吉村清尙先生著  
●國觀 ○禾月畫 口繪

米の話

●菊判頗る美本 口繪十數度 採色  
●石版挿畫十數個 挿入  
●東牧辛先生著 ○國觀畫

日曜讀本

●菊判形頗る美本 未曾有の珍本  
●挿畫口繪數十葉 挿入價金十五  
●錢 郵税四錢



# 本誌特色

理屈云はず實用ばかり  
優しい文章で面白い書方  
質問隨意返事は分るまで

それはく實に  
親切な雑誌

## 早くお読みなさい直ぐ間に合ふ

第二卷 第四號

四月一日發行

# 明治の家庭

定價一冊六錢  
六冊郵税共三十三錢  
一年分六十錢  
郵券代用一割増

- わんわんやねんね
- 女學生の母様に
- 兵隊遊びと母
- 商家より通帳を取るの可否
- 子供に毒の春の草
- 少女に教へられて成功せし
- 教育家
- 子供が風を好むわけ
- 主人の靴と奥様
- 子供の育て方
- 西洋風の掃除

白 虹 繪  
岸邊東洋幼稚園長  
嘉悦孝子  
岡みち子  
岡藤禮介  
佐藤禮介  
文學士 奥田次之  
早稻田大學講師 五十嵐力  
小菅 淳  
醫學士 山根正次  
(質問澤山)

- 動物を可愛がるお伽噺(懸賞二等)
- 新式子供の編物
- 下宿屋の献立表
- よろづ問答
- なますの種々
- ご馳走天狗
- 献立問答
- 可愛らしい話
- 讀者の聲
- お伽噺募集(賞金十圓)

近藤箕溪  
福山つね子  
貧乏書生  
(質問隨意)  
松本常次郎  
(懸賞募集)  
(投書隨意)

### 發行所

東京市牛込區  
納戸町六番地  
明治の家庭社

### 發賣所

東京日本橋區  
本石町三丁目  
寶文館  
電話本局  
二三一三

# 心の花



編輯主任

佐々木信綱



第十卷第四號 (四月一日發行)

○思ひ出づるまゝに  
○喜劇新式教授法  
○桂園一枝管見  
○源氏物語と香樓夢  
○晴小袖を讀みて  
○落穂(短歌三百首)  
○小說嫁入車  
○非詩人一夜  
○森の物語  
○月物語  
○小説紅梅御殿足  
○不遇の歌人嚴足  
○化石貝  
○谷の貝  
○文話  
○法隆寺にての新發見  
○海さち山さち  
○憂國の歌人草臣

△每號課題競點あり△投稿歡迎す  
△定價一冊郵稅共金拾三錢 半年分金七拾五錢

日本橋區本石町一ノ一

竹柏會出版部

井上文學博士  
藤澤古  
井上文學博士  
學居通  
上田敏  
さすら八  
大塚楠緒  
沼波瓊  
まほろ  
三浦白  
西岡白  
彌富濱  
吉野臥  
岩野池  
小杉文學博士  
香山秀  
香取千  
石樽木信  
佐々木信綱

新編手紙

宮中御歌所寄人 中邨秋香先生新作  
華族女學校講師 小野鶯堂先生淨書

(用子男)

女子消文の手ほどき

本書其中邨秋香先生の新作にして、書簡文獨習者の爲に通俗平易なる實用の文題百餘種を總括かな付にせられたるは、他に其比を見ざる處、特に小野黨堂先生が大字に書かれたれば習字の Handbook として此上もなき良書なり

新編書簡文例

(用子男)

新編  
女子書簡文例

本書の文例の現代の文豪中柳秋香先生の腦漿より迸出せしものなれば一言一句津々たる趣味あり、繁に流れる簡に失せず、疑古に陥らず流俗に同せずして眞に今日本書簡文の好模範たり、加ふるに書は筆硯界の巨璧小野鷗堂先生の手腕に成りしものなれば又習字の蠱鑑として上乘の書なり、特に上欄に類語數千句を掲げ書簡文を作習せんと欲する人をして自由自在に意を達せしむるの便に供せられたるものなれば、新編書簡文法式と相待て斯道の完璧と稱すべきものなり

木版半紙摺  
頗高尚優美  
男女各一冊  
定價六拾錢  
郵稅六錢

中邨秋香先生著 増訂五版

文鑑  
**千草の錦**

菊判和裝  
定價五拾五錢  
郵稅拾錢

[illegible]

書簡文法式男に別ちて大成せるものは、古來未嘗て有  
 儀の缺くべからざるが如く、苟も人に禮儀なくする者  
 日な交際場裡に立つては、能はざるべし。御に富み、  
 先生深く之を世に公にせらるる。各書簡文法式の中、秋

# 新編書簡文法式

(用子男)

總クロース  
金文字入  
定價五拾五  
郵税六錢

新編  
女子書簡文法式

西  
洋  
綴  
美  
本  
定  
價  
六  
拾  
錢  
郵  
稅  
六  
錢

◎女子は男子と自ら差別ありて特に散らし建は小野慈堂先生の書に係るものを入せり  
此法式は元來封建制度の代に於ける尊卑上下に就きて種々の段階を分つて如き煩を避ける今日の現状に依り舊新を對照して以て時の宜に從ひ適當の式を設けり故に人々のなり  
間處時には一からざるは勿論、苟も筆を畫簡に把る者は瞬時も座右を缺つべからざる要書なり

五十嵐力譯補

クロス綴美本

# 兒童の研究

金壹圓  
小包料拾錢

人の性格の固定するは兒童教育の眼目也後來の教育根本實に兒童教育にあり兒童の心理の發達に應じて相當の教育を與へて正道に導くは父たるもの、務也本書原著は米國哲學博士テール博士の著す所以して彼の國の學界に推重されしもの、五十嵐先生の丁寧なる譯に加ふるに先生多年研究の結果を以てしたれば其精致なる觀察と穩健なる判斷とは兒童訓練の正しき道を知らしむるに適せり、子を持つてゐる親を預ける教師苟も人性の芽生に美しき技振をなさしめんとする人は此書を讀み給ふべし。

尾上新兵衛主幹 第一號三月既刊  
鏑木清方

# お伽世界

毎月一回  
一日發行

現今家庭に關する書の刊行せらるゝ汗牛充棟も當ならずと雖も直に幼き者に與へて讀ましめ樂ましむべき適切なものなきは甚だ遺憾とす所にしてわが此『お伽世界』は此欠點を補はんが爲に生れたるもの。小兒の趣味教育を目的として家庭及教室の良補助者を以て任じ、高尚に優美に施施に最も意を盡して全誌を極彩色石版摺にしたるものなれば本誌が如何なる歡迎を受くるに値ひするかは大方の判斷に仰がんとする所、價の低廉なる又竊に意を用ゐたる所にして幼稚園學校等の褒美賞與、家庭相互間の贈物に好適なるべく何れよりするも本誌が小供雜誌中の白眉たるべきを信じて疑はざる所なり

中村雨著 俗通新約物語

定價金壹圓  
小包料拾錢

網川島 三色版六葉泰西名畫廿四葉插入釘製極類美箱入

梁下川 良病の間の白錄 (三版) 金壹圓

尚江 火の航の白錄 (全三冊) 各稅六錢

同池 妙な航の白錄 (十二版) 各稅六錢

幽村 密の航の白錄 (全三冊) 各稅六錢

中雨 緣の航の白錄 (新刊) 各稅六錢

春川 糸の航の白錄 (新刊) 各稅六錢

柳葉 髮の航の白錄 (新刊) 各稅六錢

春藤 間宮 (新刊) 各稅六錢

須藤 琵琶 (四版) 各稅六錢

南翠 琵琶 (新刊) 各稅六錢

大倉 琵琶 (新刊) 各稅六錢

桃郎 琵琶 (新刊) 各稅六錢

佐野 琵琶 (新刊) 各稅六錢

天聲 琵琶 (新刊) 各稅六錢

薄田 琵琶 (新刊) 各稅六錢

泣集 琵琶 (新刊) 各稅六錢

鳥居 琵琶 (新刊) 各稅六錢

君子 琵琶 (新刊) 各稅六錢

中村 琵琶 (新刊) 各稅六錢

松井 琵琶 (新刊) 各稅六錢

昇松 琵琶 (新刊) 各稅六錢

畫井 琵琶 (新刊) 各稅六錢

解書キリスト物語 定價金壹圓 小包料拾錢

上等舶來紙彩色石版摺

七

堂淵文尾金 五二區橋京市京東 元兌發





女子高等師範學校教授 東基吉先生著

# 新案 育兒日記

洋裝美本紙數凡そ四百五十頁  
定價三十錢(總クロース)  
特製五拾錢總(革)

▼▼▼ 本 月 中 發 刊 ▲▲▲

●子供の日記は我が子の教育上無二の參考書にして又唯一の方針を示す

●子供の日記は我が子の最初より完全にして最も信據すべき傳記なり

●子供の日記は我が子の將來父母に對する謝恩の觀念を一層甚深ならしむ

●思慮ある父母は必ず子供の日記を記せざるべからずこの我が子に對する父母の責任なり義務なり

●育兒日記は實に父母をしてこの責任と義務とを果さしめんが爲めに發刊せられたるものなり

●本書は東先生完全なる育兒日記のなきがために世の父母が兎角子供の日記を記し行くを怠り

●が從來我國に記入の方法の簡便なるが附録多の價値ある指示と有益なる日記の雛

●の形數業とを添へられ子供ある家庭には是非とも備へざるべ

●切文明的なる子出產の祝品として最も適

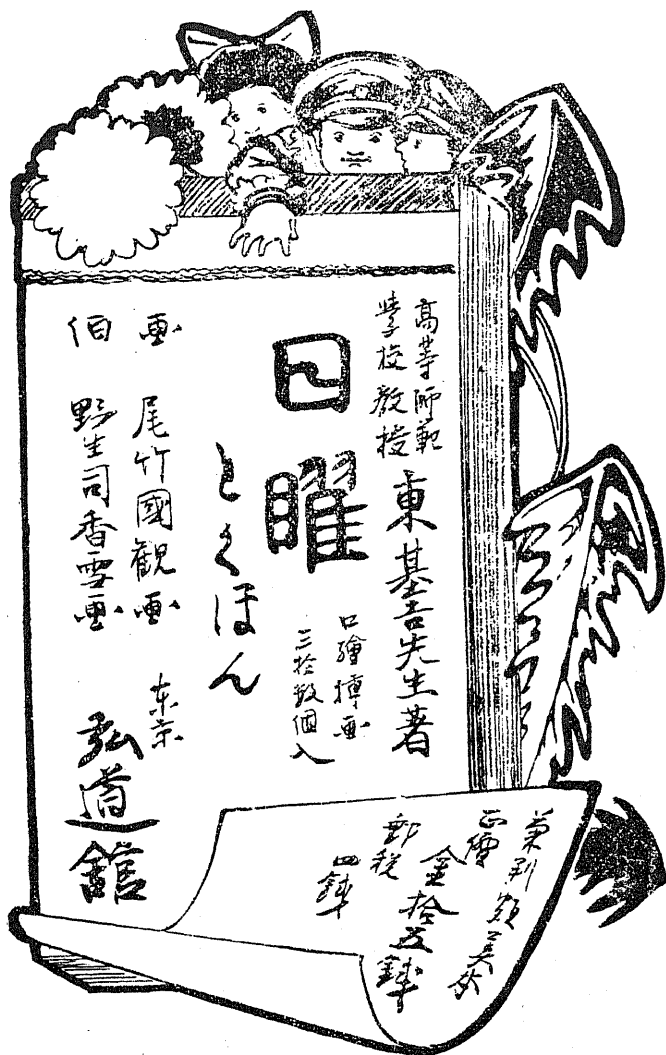
發兌 元

東京市京橋區南大工町一番地

弘道館

● 家庭の贈り物 ●  
 小學校の児童へ の贈り物 ●  
 家庭の贈り物 ●  
 児童の贈り物 ●

新 版



製本既成發賣

發行所 東京市南區橋本 弘道館

土曜日の夕方とか日曜日の朝とか其他の學校のお休みの日の子供等の讀本の爲めに修身とか理科とか地理とかの中から極めて趣味ある題を選んで面白くかゝれたのがこの日曜とくぼんです中には面白く可笑しいお伽噺もあれば西洋の考へ物や格言や精功な繪さがしや室内遊戲などもある。挿繪の數多いことわ此上なし

子供を愛する父母、子供を愛する教師諸君に謹みて此の日曜讀本の御一覽を希望します。

御注文の節は(婦人の子供)を記附御旨るを乞ふ

好評の新聞書

文學博士 姉崎正治先生著

國進と信仰

洋裝頗る美本全一冊  
正價金壹圓  
郵稅金十錢  
紙數五百九十餘頁

偉人耶穌

洋裝菊判形頗美本  
全一冊  
正價七十一錢  
郵稅八錢

文部省編輯 東京府立大田先生著

食養教授指針

(寫眞插畫數個人)  
全一冊  
正價金廿八錢  
郵稅四錢

金子堅太郎先生著

日本教育之將來

菊判形全一冊  
正價二十錢  
郵稅四錢

教育者は速かに本書の一讀を望む

發行所

東京區南大町

弘道館

## フレーベル會規則

- 第一條 本會ハ幼兒保育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハフレーベル會ト稱シ東京ニ置ク
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒保育ニ篤志ナルモノニシテ會員ノ紹介ヲ經ベシ
- 第四條 會員ハ本會ノ經費トシテ一ヶ月金拾錢ヲ提出スベシ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルモノハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルベシ
- 第六條 本會ノ目的ヲ達センガ爲ニ左ノ事業ヲ行フ
- 一 總會 毎年四月二十一日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話保育參列品幼兒成績物展覽會、會務ノ報告、幹事ノ選舉等ヲナス會日ハ會長ノ意見ニヨリ之ヲ變更スルコトアルベシ
  - 一 常會 毎年二月、六月、十月、十二月ノ第一土曜日之ヲ開キ保育ニ關スル演説、談話、協議、實驗等ヲナス
  - 一 組合會 會員中特ニ或ル事項ヲ研究セントスル者ヲ以テ組織ス但シ別ニ組合會規約ヲ定メテ會長ノ承認ヲ經ルモノトス
  - 一 雜誌發行、毎月一回雜誌ヲ刊行シ之ヲ會員ニ配布ス
  - 一 前項ノ外本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
- 會長 一人 會務ヲ總理ス
- 主幹 一人 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
- 幹事 十人 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
- 評議員 若干人 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第八條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第九條 主幹ハ會長ノ特選トス
- 第十條 幹事ハ會員ノ互選トシ其任期サ二ケ年トス但シ毎年半數ヲ改選スルモノトス
- 第十一條 評議員ハ會長ノ特選トス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルベシ
- 第十三條 此規則ハ會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ス

## 謹告

戦後の教育的經營は女子教育と幼兒教育との發展に俟つこと切なり。而して本會は實に其指導者たる可き重責を荷ふ。従つて其機關雜誌たる本誌は年と共に其内容を精選し、今又大に改革を實行せり。

讀者諸君希くば益々自重自信以て我保育界の爲に盡されんことを。

フレーベル會

## 謹告

本誌は、婦人教育及家庭教育、其他緊要なる各種の問題に關して、讀者諸君の質疑照會に應ず、

但返信料を要す。

本誌は又一般讀者の寄稿を歡迎す。殊に家庭の日誌、各地に於ける婦人教育幼兒保育の狀態、婦人問題、婦人兒童の遊戲、手毬歌、子守歌等に付きては、詳細なる報告を望む。但投稿は、凡て左の規則によること。

- 一、用紙は、白紙、字詰は、半枚十行廿二字詰、體は楷書。
- 一、一事項毎に別紙を用ひ、別口に住所氏名を記入せらるべきこと。
- 一、原稿は、一切返附せざるべし。
- 一、封書の表には、凡て婦人ど子ども投稿と明記せらるべし。
- 一、投稿にして、有益と認めたる時は相當の謝意を表することあるべし。
- 一、照回は往復はがき又は返信用切手封入のこと。

## 會告

本會に御入會なされんとする方は、會則にある通り會費は一ヶ月金拾錢ですから其割合で何ヶ月かを纏めて東京京橋區南大工町一番地書肆弘道館へ御送金の上本會へ御申込下さい、さすれば雜誌は該館より御送付致します。會員にならずに雜誌だけ讀みたい方は左の割合で矢張全館へ御注文下さい。

一冊金拾錢六冊前金五拾七錢拾貳冊金一圓拾錢外に郵税一冊五厘づゝ

明治廿九年四月一日印刷  
同 年四月五日發行 (本號に限り十日發行)

### 禁轉載

發行所 編輯者 辻 本 卯 藏  
印刷所 東京市京橋區南大工町一番地  
發行所 東京市神田區錦町二丁目十九番地  
印刷所 フレベール  
發行所 女子高等師範學校附屬幼稚園内  
印刷所 熊田活版所  
發行所 東京市神田區錦町三丁目二十五番地  
印刷所 弘道館

### 發賣元

弘道館

大賣捌 東京堂 金昌堂 北隆館 東海堂

東京市京橋區南大工町一番地

區橋京市京東  
地番三十町川竹